■トンネル台帳　トンネル諸元、非常用施設諸元【様式S-1】

トンネルID	40.71569,141.05858

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	管理者名	青森県 七戸町	緊急輸送道路	無
名　称	作田隧道					代替路の有無	無

所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	作成者	株式会社復建技術コンサルタント	作成年月日	2023年9月21日	トンネル延長	L= 196.3 m
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木					トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）

起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	完成年月日		舗装	種　別	アスファルト系	トンネル非常用施設	施設の内訳		種別・方式	型式	個数	更新年度
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″	供用年月日			厚　さ	m		通報設備	通話型通報設備				
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″	トンネル等級	D		面　積	647.8 ㎡			操作型通報設備				
	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″	内装種類	覆工(内装なし)		更新年次	不明			自動通報設備				
一般有料区分		無料	天井板種類		排水	種　別	U型側溝排水		警報設備	非常警報設備				
土かぶり		m	坑門 起点	形式 面壁型		更新年次	不明		消火設備	消 火 器				
内空断面積		18.3 m2		延長 m	施設	種別・方式	個数	更新年次		消火栓設備				
交 通 量		台/日	坑門 終点	形式 面壁型	道路附属物等 照明				避難誘導設備	誘導表示設備				
幅員	道 路 幅	4.1 m		延長 m	換気	自然換気				避難情報提供設備				
	車 道 幅	3.6 m	竣工巻厚	アーチ cm	標識									
		m		側　壁 cm	警報表示板					避難通路				
	歩道等幅	m		cm	吸音板					排煙設備				
高さ	建築限界高	4 m		インバート cm					その他の設備	給水栓設備				
	中央高	4.9 m	半径	アーチ 205 cm						無線通信補助設備				
	有効高	4 m		側　壁 cm						水噴霧設備				
線形	縦断勾配			インバート cm						監視設備				
	直線区間長		占用物件	種　類	寸　法	管理者名	更新年次		非常用施設関連設備	予備発電設備				
	曲線区間 区間長													
	起点側ｸﾛｿｲﾄﾞ													
	曲線半径													
	終点側ｸﾛｿｲﾄﾞ								その他	非常駐車帯				
トンネル工法										方向転換所				

※緯度・経度については0.2″単位まで記入することとする。

■トンネル台帳　トンネル情報一覧表【様式S-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	作成者	株式会社復建技術コンサルタント	作成年月日	2023年9月21日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町				

覆工スパン番号	スパン長 (m)	追加距離 起点側 (m)	追加距離 終点側 (m)	トンネル本体工 特記事項	トンネル本体工 内装板	トンネル本体工 天井板	照明施設 基本照明	照明施設 入口出口照明	照明施設 特記事項	非常用施設 非常電話	非常用施設 押ボタン式通報装置	非常用施設 消火器	非常用施設 消火栓	非常用施設 非常警報装置	非常用施設 誘導表示板	非常用施設 避難連絡坑	非常用施設 JF	非常用施設 監視装置(CCTV)	非常用施設 特記事項	換気施設 JF	換気施設 VI計	換気施設 CO計	換気施設 風向風速計	換気施設 特記事項	その他附属物等
PS	0	0	0	坑門（面壁型）																					
S001	10.2	0	10.2																						
S002	6.2	10.2	16.4																						
S003	19.8	16.4	36.2																						
S004	19.6	36.2	55.8																						
S005	10.5	55.8	66.3																						
S006	10.5	66.3	76.8																						
S007	10.5	76.8	87.3																						
S008	10.5	87.3	97.8																						
S009	10.5	97.8	108.3																						
S010	10.5	108.3	118.8																						
S011	10.5	118.8	129.3																						
S012	10.5	129.3	139.8																						
S013	10.5	139.8	150.3																						
S014	10.5	150.3	160.8																						
S015	10.5	160.8	171.3																						
S016	10.5	171.3	181.8																						
S017	8.5	181.8	190.3																						
S018	6.0	190.3	196.3																						
PE	0	196.3	196.3	坑門（面壁型）																					

■トンネル台帳　トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）【様式S-3】

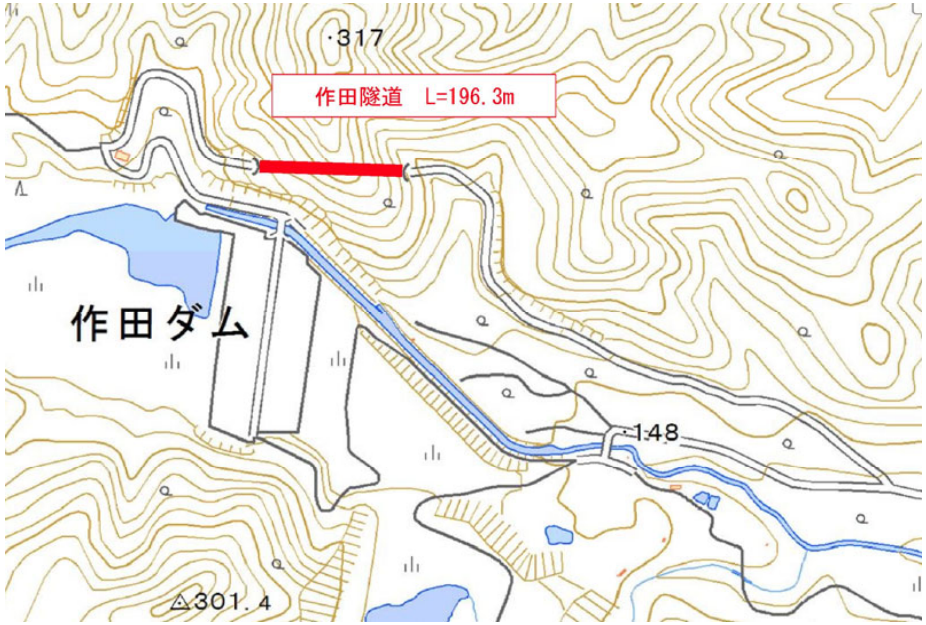
フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	作成者	株式会社復建技術コンサルタント	作成年月日	2023年9月21日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町				

位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断図・施工実績

現況写真（起点坑口）



位置図

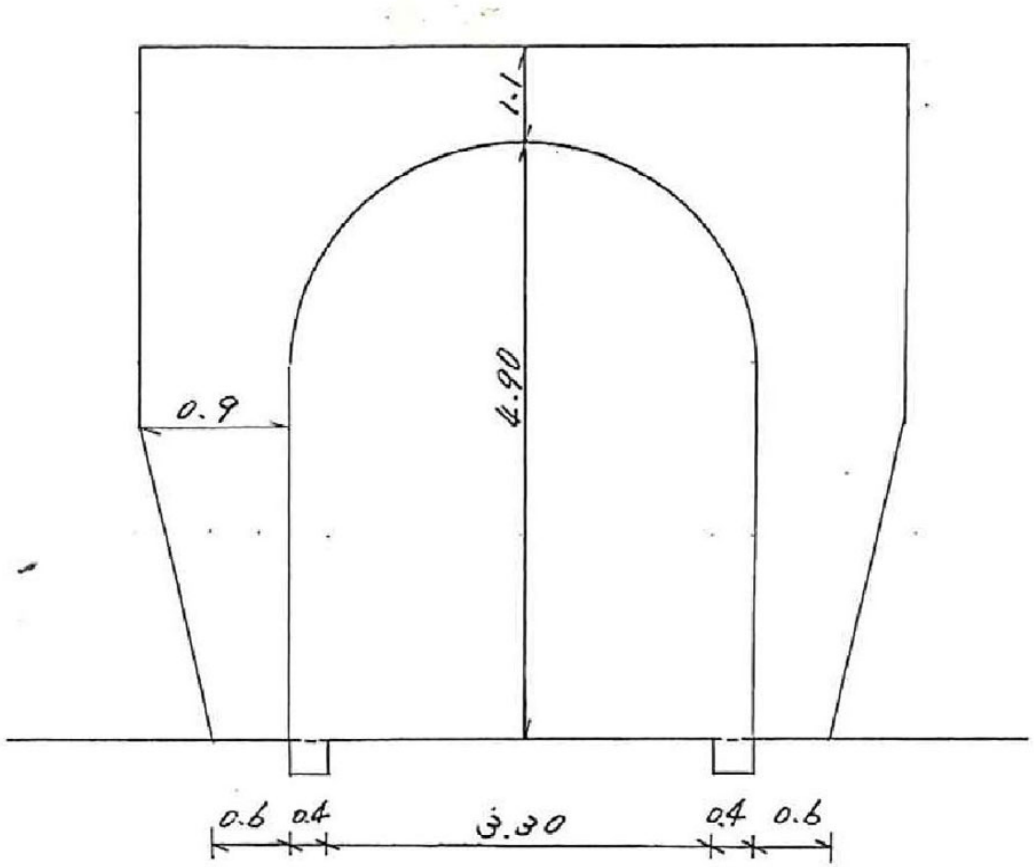


■トンネル台帳　トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）【様式S-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	作成者	株式会社復建技術コンサルタント	作成年月日	2023年9月21日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町				

位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断図・施工実績

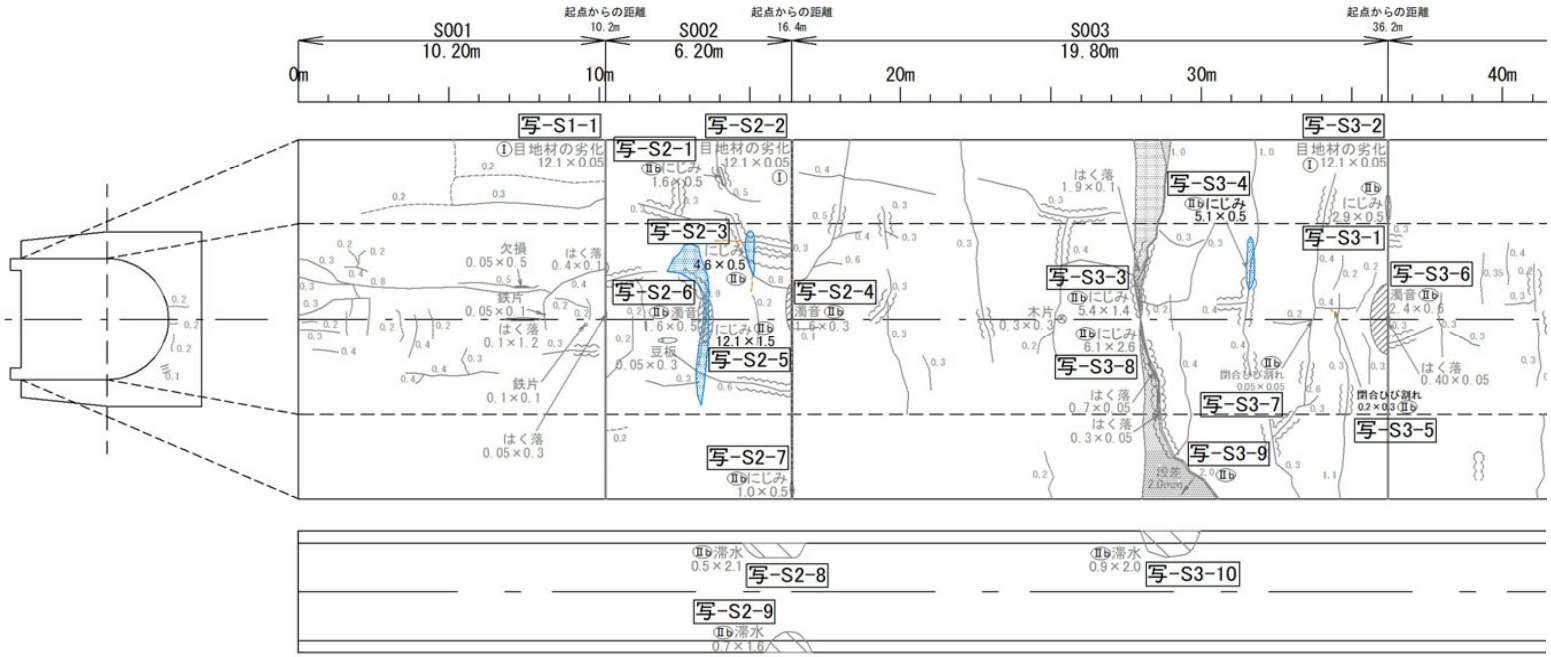
標準断面図



■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式A-1】

トンネルID	40.71569,141.05858																		
フリガナ	サクタズイドウ		路線名	作田防災ダム線		管理者名	青森県 七戸町												
名　称	作田隧道																		
緊急輸送道路	無																		
代替路の有無	無																		
所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント		定期点検年月日	2023年9月5日												
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検者名	二木 茂樹															
トンネル延長	L=　196　m																		
トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）																		
起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ	30 箇所	Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性	Ⅱ	附属物の取付状態	○（応急措置後）				
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″			漏水	Ⅱ	34 箇所	Ⅲ		Ⅳ									
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″			外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ					×				
	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″																	

トンネル変状・異常箇所写真位置図

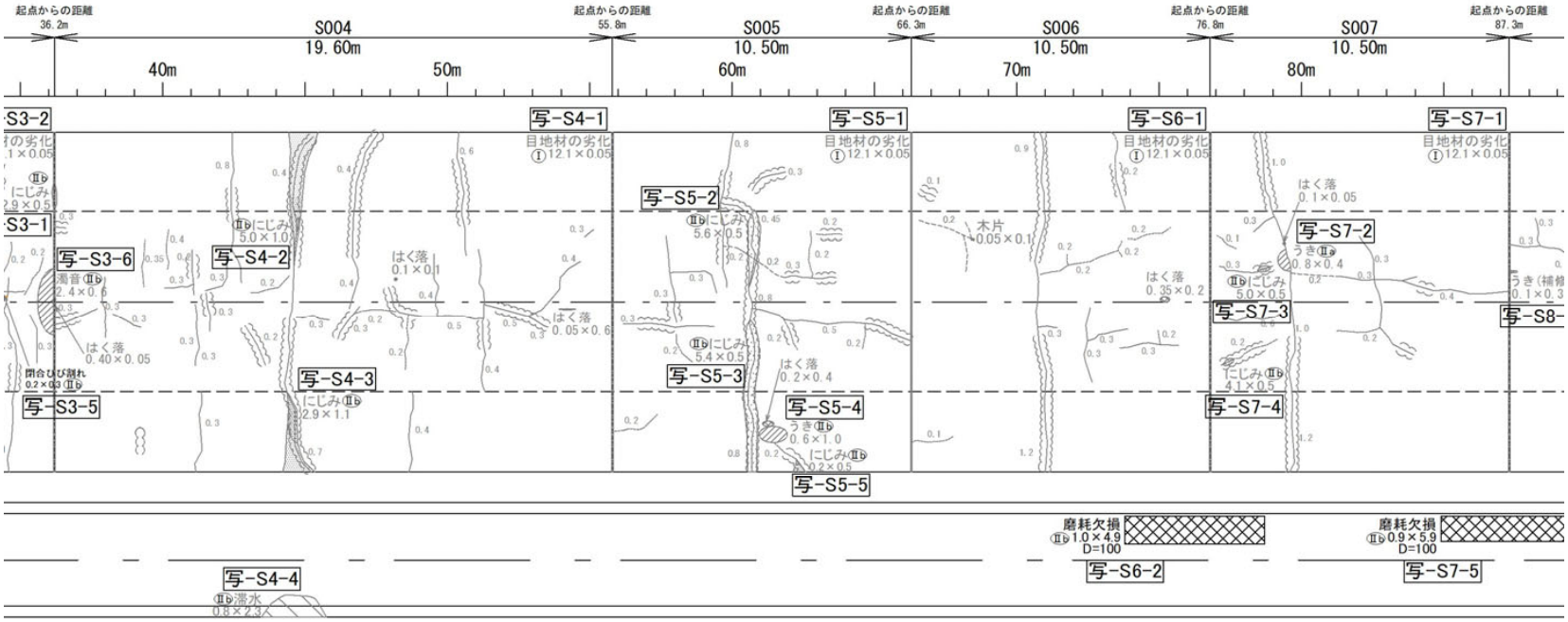


※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
※3　附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式A-1】

トンネルID	40.71569,141.05858																		
フリガナ	サクタズイドウ		路線名	作田防災ダム線		管理者名	青森県 七戸町												
名　称	作田隧道																		
緊急輸送道路	無																		
代替路の有無	無																		
所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント		定期点検年月日	2023年9月5日												
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検者名	二木 茂樹															
トンネル延長	L=　196　m																		
トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）																		
起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ	30 箇所	Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性	Ⅱ	附属物の取付状態	○（応急措置後）				
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″			漏水	Ⅱ	34 箇所	Ⅲ		Ⅳ									
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″			外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ					×				
終点	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″																	

トンネル変状・異常箇所写真位置図

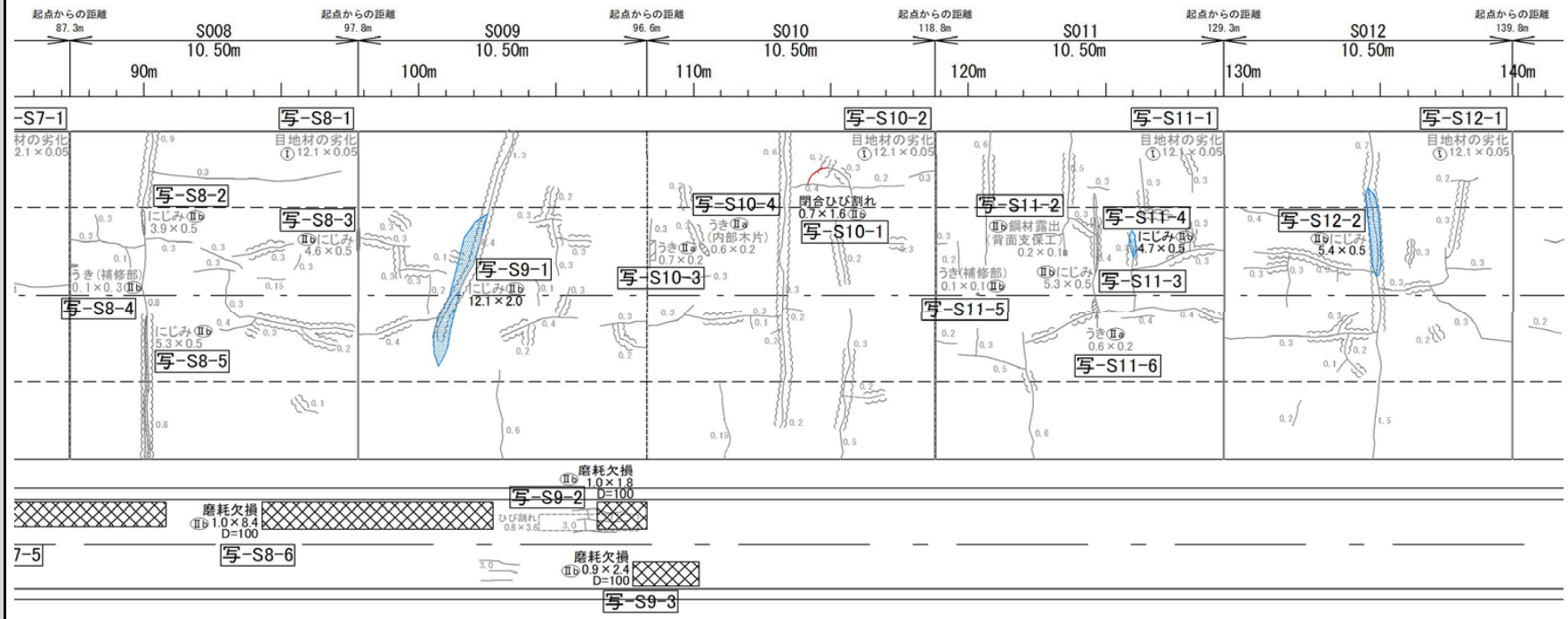


※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
※3　附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式A-1】

トンネルID	40.71569,141.05858																		
フリガナ	サクタズイドウ		路線名	作田防災ダム線		管理者名	青森県 七戸町												
名　称	作田隧道																		
緊急輸送道路	無																		
代替路の有無	無																		
所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント		定期点検年月日	2023年9月5日												
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検者名	二木 茂樹															
トンネル延長	L=　196　m																		
トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）																		
起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ	30 箇所	Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性	Ⅱ	附属物の取付状態	○（応急措置後）				
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″			漏水	Ⅱ	34 箇所	Ⅲ		Ⅳ					×				
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″			外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ									
	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″																	

トンネル変状・異常箇所写真位置図

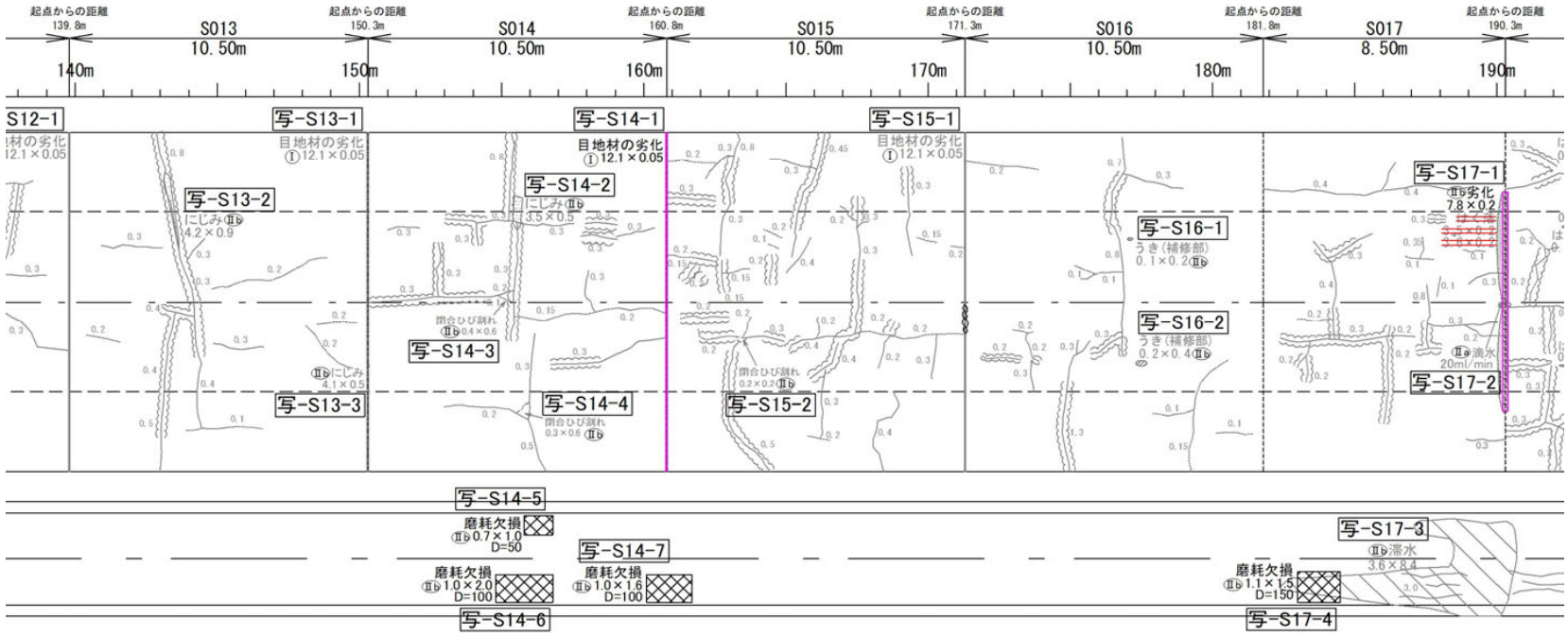


※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
※3　附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式A-1】

トンネルID	40.71569,141.05858																		
フリガナ	サクタズイドウ		路線名	作田防災ダム線		管理者名	青森県 七戸町												
名　称	作田隧道																		
緊急輸送道路	無																		
代替路の有無	無																		
所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント		定期点検年月日	2023年9月5日												
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検者名	二木 茂樹															
トンネル延長	L=　196　m																		
トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）																		
起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ	30 箇所	Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性	Ⅱ	附属物の取付状態	○（応急措置後）				
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″			漏水	Ⅱ	34 箇所	Ⅲ		Ⅳ									
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″			外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ					×				
終点	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″																	

トンネル変状・異常箇所写真位置図



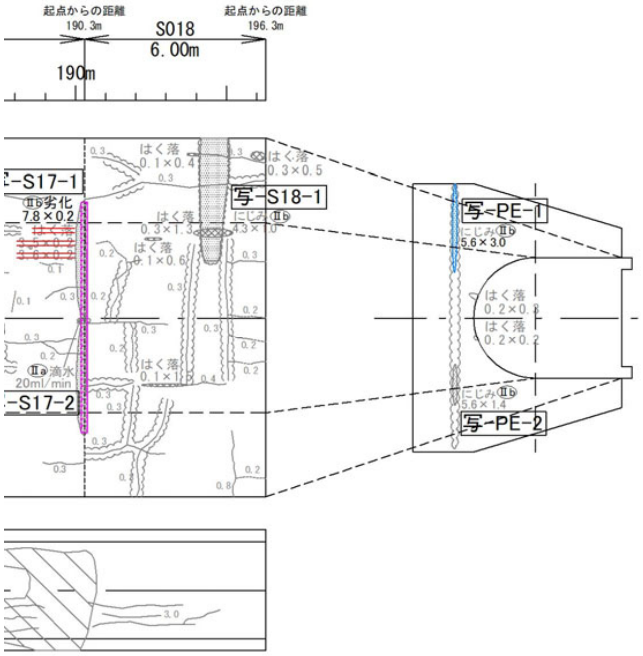
※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
※3　附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式　トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式A-1】

トンネルID	40.71569,141.05858																	
フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	管理者名	青森県 七戸町													
名　称	作田隧道																	
緊急輸送道路	無																	
代替路の有無	無																	
所在地	自	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日												
	至	青森県上北郡七戸町字銀南木	定期点検者名	二木 茂樹														
トンネル延長	L=　196　m																	
トンネルの分類	陸上トンネル（掘進工法）																	

起点	緯度	40 ° 42 ′ 56.5 ″	変状・異常箇所数合計	トンネル本体工	材質劣化	Ⅱ	30 箇所	Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性	Ⅱ	附属物の取付状態	○（応急措置後）	
	経度	141 ° 03 ′ 30.9 ″			漏水	Ⅱ	34 箇所	Ⅲ		Ⅳ						
終点	緯度	40 ° 42 ′ 56.7 ″			外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ					×	
	経度	141 ° 03 ′ 23.1 ″														

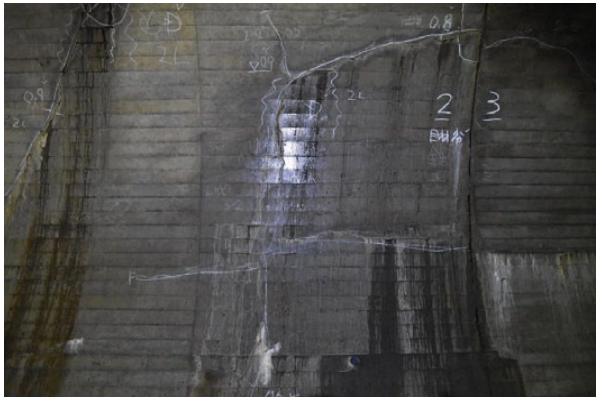
トンネル変状・異常箇所写真位置図



※1　トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2　本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
※3　附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
※4　附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S001		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	1			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	側壁（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 1.6m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 1.6m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.6m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 0.8m×0.2m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

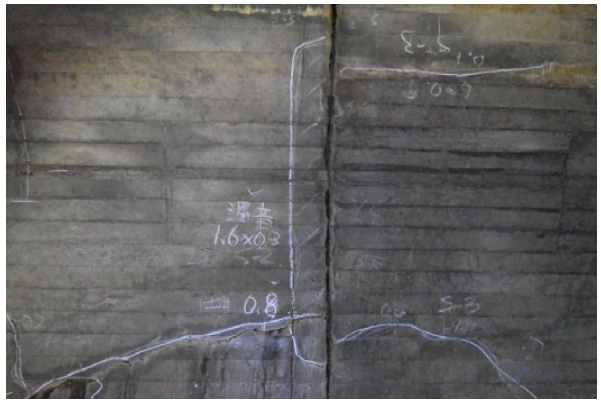
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	4			変状番号	5	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（天端）			部位区分	アーチ（全周）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		うき・はく離		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		濁音 1.6m×0.3m		変状の発生範囲の規模		にじみ 12.1m×1.5m	
前回定期点検時の状態		濁音 1.6m×0.3m		前回定期点検時の状態		にじみ 0.5m×0.1m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	6			変状番号	7	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（天端）			部位区分	側壁（右側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		うき・はく離		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		濁音 1.6m×0.5m		変状の発生範囲の規模		にじみ 1.0m×0.5m	
前回定期点検時の状態		濁音 1.6m×0.5m		前回定期点検時の状態		にじみ 1.0m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	8			変状番号	9	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	車道			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		滞水		変状種類		滞水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		滞水 0.5m×2.1m		変状の発生範囲の規模		滞水 0.7m×1.6m	
前回定期点検時の状態		滞水 0.5m×2.1m		前回定期点検時の状態		滞水 0.7m×1.6m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		車道にの滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工･坑門		変状部位	対象箇所	覆工･坑門	
	部位区分	横断目地（左側）			部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 2.9m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 2.9m×0.5m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		左横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

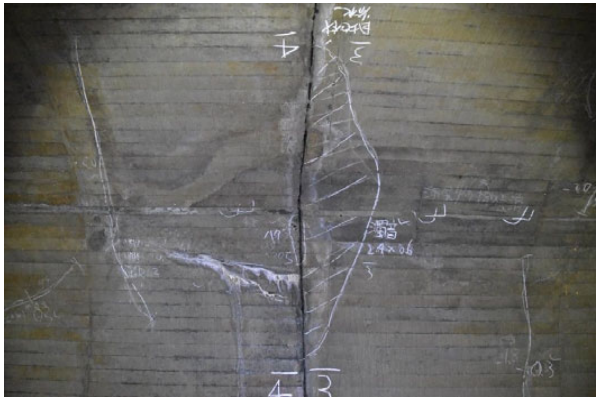
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.4m×1.4m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.1m×0.5m	
前回定期点検時の状態		にじみ 5.4m×1.4m		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	5			変状番号	6	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	アーチ（天端）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		閉合 0.2m×0.3m		変状の発生範囲の規模		濁音 2.4m×0.6m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		濁音 2.4m×0.6m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		左アーチ部の閉合ブロック化、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	7			変状番号	8	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(右側)			部位区分	アーチ(右側)	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		うき・はく離		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		閉合 0.05m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 6.1m×2.6m	
前回定期点検時の状態		閉合 0.05m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 6.1m×2.6m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	9			変状番号	10	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	側壁(右側)			部位区分	車道	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		ひび割れ		変状種類		滞水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		最大幅2.0mm/段差2.0mm		変状の発生範囲の規模		滞水 0.9m×2.0m	
前回定期点検時の状態		最大幅2.0mm/段差2.0mm		前回定期点検時の状態		滞水 0.9m×2.0m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右側壁部の段差を伴うひび割れ、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S004		写真番号	覆工スパン番号	S004	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.0m×1.0m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.0m×1.0m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S004		写真番号	覆工スパン番号	S004	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	側壁（右側）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		滞水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 2.9m×1.1m		変状の発生範囲の規模		滞水 0.8m×2.3m	
前回定期点検時の状態		にじみ 2.9m×1.1m		前回定期点検時の状態		滞水 0.8m×2.3m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S005		写真番号	覆工スパン番号	S005	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.6m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.6m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S005		写真番号	覆工スパン番号	S005	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（右側）			部位区分	側壁（右側）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.6m×0.5m		変状の発生範囲の規模		うき 0.6m×1.0m	
前回定期点検時の状態		にじみ 5.6m×0.5m		前回定期点検時の状態		うき 0.6m×1.0m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右側壁部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

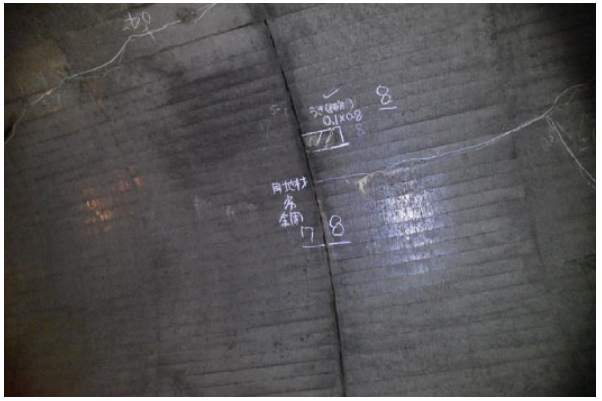
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S005		写真番号	覆工スパン番号	S006	
	変状番号	5			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	側壁(右側)			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 0.2m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 0.2m×0.5m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	
写真番号	覆工スパン番号	S006		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	車道			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×4.9m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

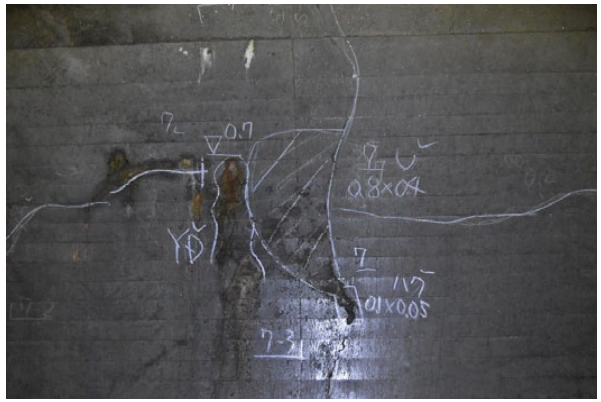
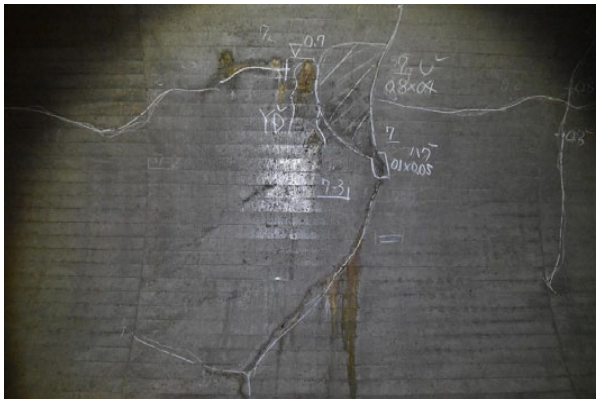
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S007		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		うき・はく離		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		うき 0.8m×0.4m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.0m×0.5m	
前回定期点検時の状態		うき 0.8m×0.4m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.0m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		左アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S007		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	4			変状番号	5	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ（右側）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.1m×0.5m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 0.9m×5.9m	
前回定期点検時の状態		にじみ 4.1m×0.5m		前回定期点検時の状態		－	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S008		写真番号	覆工スパン番号	S008	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 3.9m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 3.9m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S008		写真番号	覆工スパン番号	S008	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（左側）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.6m×0.5m		変状の発生範囲の規模		補修うき 0.1m×0.3m	
前回定期点検時の状態		にじみ 4.6m×0.5m		前回定期点検時の状態		補修うき 0.1m×0.3m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		左アーチ横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S008		写真番号	覆工スパン番号	S008	
	変状番号	5			変状番号	6	
変状部位	対象箇所	覆工･坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ(右側)			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.3m×0.5m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×8.4m	
前回定期点検時の状態		にじみ 5.3m×0.5m		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S009		写真番号	覆工スパン番号	S009	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工･坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ(全周)			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 12.1m×2.0m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×1.8m	
前回定期点検時の状態		にじみ 12.1m×0.6m		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

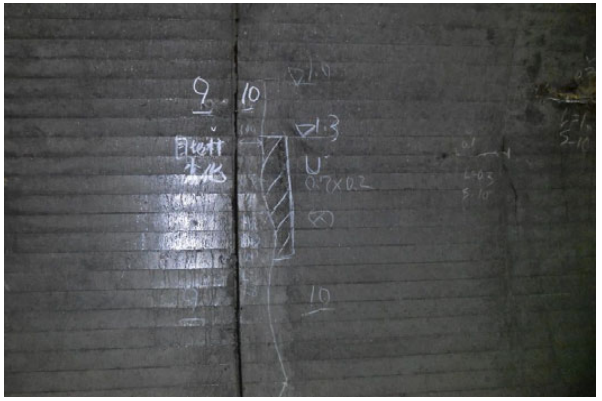
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S009		写真番号	覆工スパン番号	S010	
	変状番号	3			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	車道			部位区分	側壁（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 0.9m×2.4m		変状の発生範囲の規模		閉合 0.7m×1.6m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日）：-	対策履歴		-	実施状況（実施日）：-
メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左側壁部の閉合ブロック化、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S010		写真番号	覆工スパン番号	S010	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		うき 0.7m×0.2m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		うき 0.7m×0.2m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日）：-	対策履歴		-	実施状況（実施日）：-
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

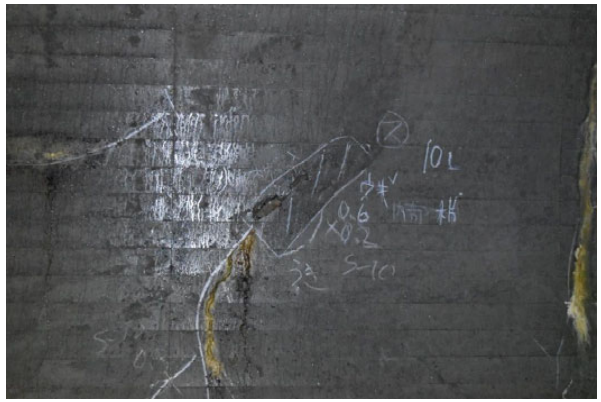
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S010		写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	4			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(左側)			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		うき 0.6m×0.2m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		うき 0.6m×0.2m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左アーチ部のうき(内部木片)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	
写真番号	覆工スパン番号	S011		写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(左側)			部位区分	アーチ(左側)	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		鋼材腐食		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		鋼材露出 0.2m×0.1m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.3m×0.5m	
前回定期点検時の状態		鋼材露出 0.2m×0.1m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.3m×0.5m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左アーチ部の鋼材露出(H鋼支保材と思われる)、大きな変化は認められない。防錆処理実施、対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

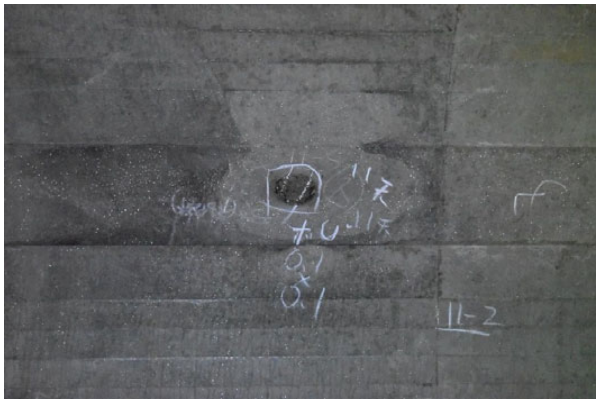
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

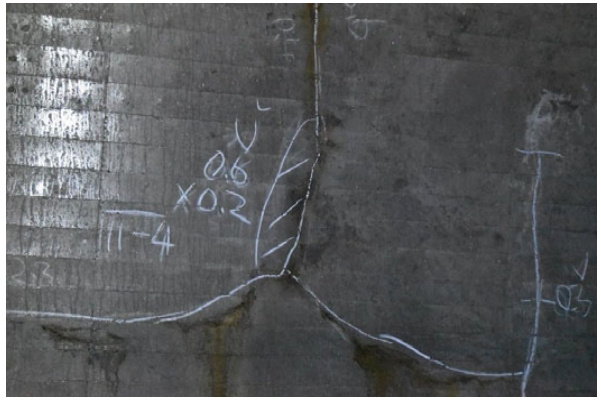
※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S011		写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	4			変状番号	5	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(左側)			部位区分	アーチ(天端)	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.7m×0.5m		変状の発生範囲の規模		補修うき 0.1m×0.1m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		補修うき 0.1m×0.1m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		アーチ天端部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S011		写真番号	覆工スパン番号	S012	
	変状番号	6			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(右側)			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		うき 0.6m×0.2m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		うき 0.6m×0.2m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

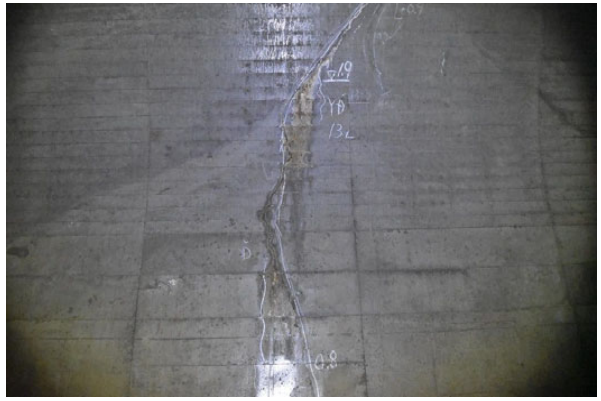
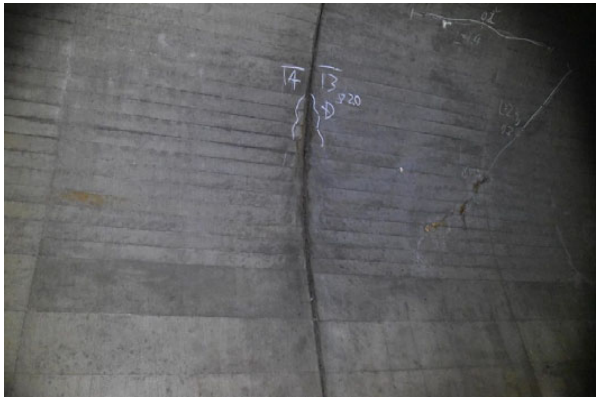
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S012		写真番号	覆工スパン番号	S013	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(左側)			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.4m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 1.9m×0.2m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	
写真番号	覆工スパン番号	S013		写真番号	覆工スパン番号	S013	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(左側)			部位区分	横断目地(右側)	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.2m×0.9m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.1m×0.5m	
前回定期点検時の状態		にじみ 4.2m×0.9m		前回定期点検時の状態		にじみ 4.1m×0.5m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右アーチ横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

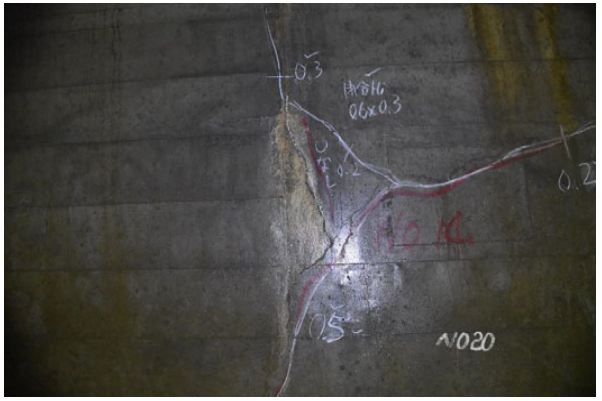
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S014	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 3.5m×0.5m	
前回定期点検時の状態		－		前回定期点検時の状態		にじみ 3.5m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、新たに確認。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S014	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	側壁（右側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		閉合 0.4m×0.6m		変状の発生範囲の規模		閉合 0.3m×0.6m	
前回定期点検時の状態		閉合 0.4m×0.6m		前回定期点検時の状態		閉合 0.3m×0.6m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		左アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右側壁部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S014	
	変状番号	5			変状番号	6	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	車道			部位区分	車道	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 0.7m×1.0m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×2.0m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S015	
	変状番号	7			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工･坑門	
	部位区分	車道			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×1.6m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

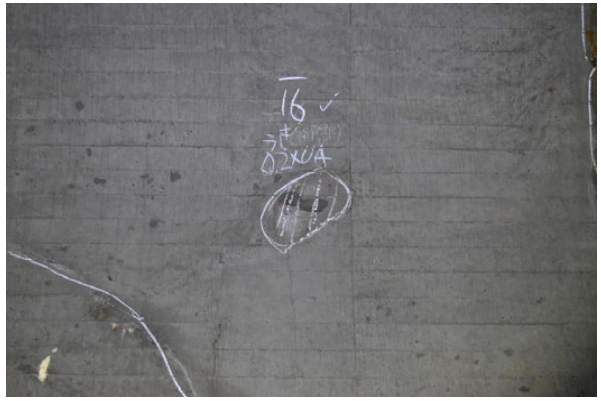
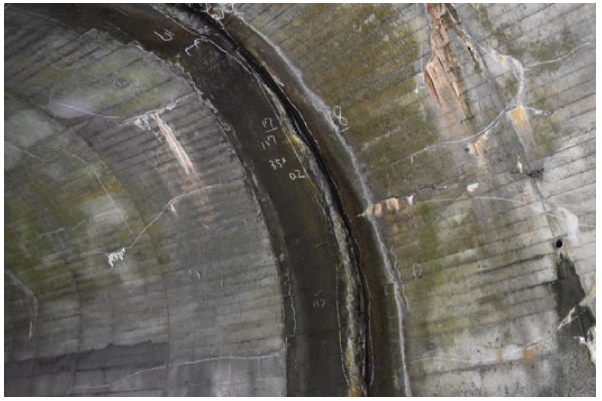
※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S015		写真番号	覆工スパン番号	S016	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(右側)			部位区分	アーチ(左側)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		閉合 0.2m×0.2m		変状の発生範囲の規模		補修うき 0.1m×0.2m	
前回定期点検時の状態		閉合 0.2m×0.2m		前回定期点検時の状態		補修うき 0.1m×0.2m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S016		写真番号	覆工スパン番号	S017	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ(右側)			部位区分	横断目地(全周)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		その他	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		補修うき 0.2m×0.4m		変状の発生範囲の規模		コンクリート劣化 7.8m×0.2m	
前回定期点検時の状態		補修うき 0.2m×0.4m		前回定期点検時の状態		はく落 3.5m×0.2m,3.6m×0.2m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		右アーチ部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周のコンクリート劣化、若干はく落箇所の拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S017		写真番号	覆工スパン番号	S017	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	横断目地（天端）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		滞水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		滴水 20ml/min		変状の発生範囲の規模		滞水 3.6m×8.4m	
前回定期点検時の状態		滴水 20ml/min		前回定期点検時の状態		滞水 3.6m×8.4m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		アーチ天端横断目地部の漏水（滴水）、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S017		写真番号	覆工スパン番号	S018	
	変状番号	4			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	車道			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.1m×1.5m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.3m×1.0m	
前回定期点検時の状態		－		前回定期点検時の状態		にじみ 4.3m×1.0m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）－	対策履歴		－	実施状況（実施日）－
メモ		車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式A-2】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	PE		写真番号	覆工スパン番号	PE	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	面壁・妻壁等			部位区分	面壁・妻壁等	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		漏水	
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱ			応急措置後	Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.6m×3.0m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.6m×1.4m	
前回定期点検時の状態		にじみ 5.6m×1.4m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.6m×1.4m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		面壁の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		面壁の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号			写真番号	覆工スパン番号		
	変状番号				変状番号		
変状部位	対象箇所			変状部位	対象箇所		
	部位区分				部位区分		
変状区分				変状区分			
変状種類				変状種類			
健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲の規模				変状の発生範囲の規模			
前回定期点検時の状態				前回定期点検時の状態			
調査方針				調査方針			
対策履歴			実施状況（実施日）	対策履歴			実施状況（実施日）
メモ				メモ			

※　健全性（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

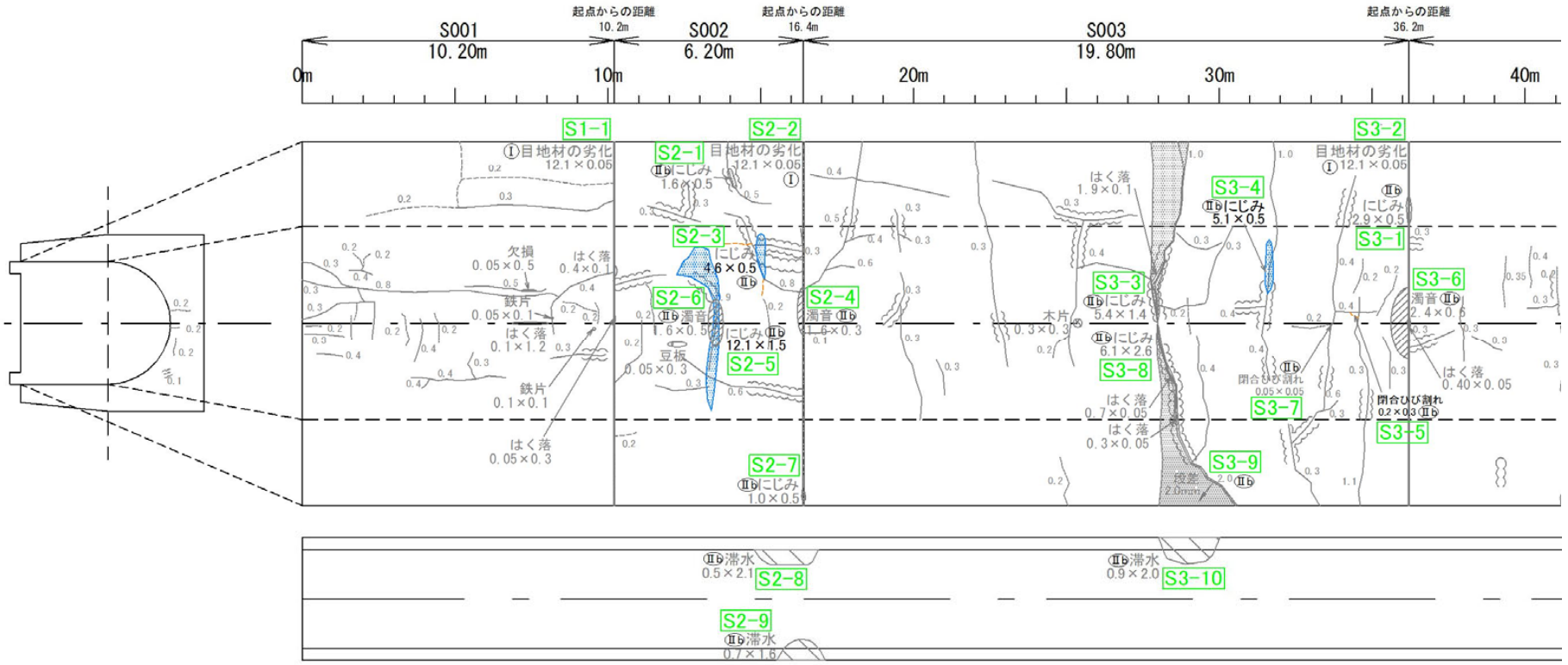
※　応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式B-1(a)】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

トンネル変状展開図

トンネル全体変状展開図

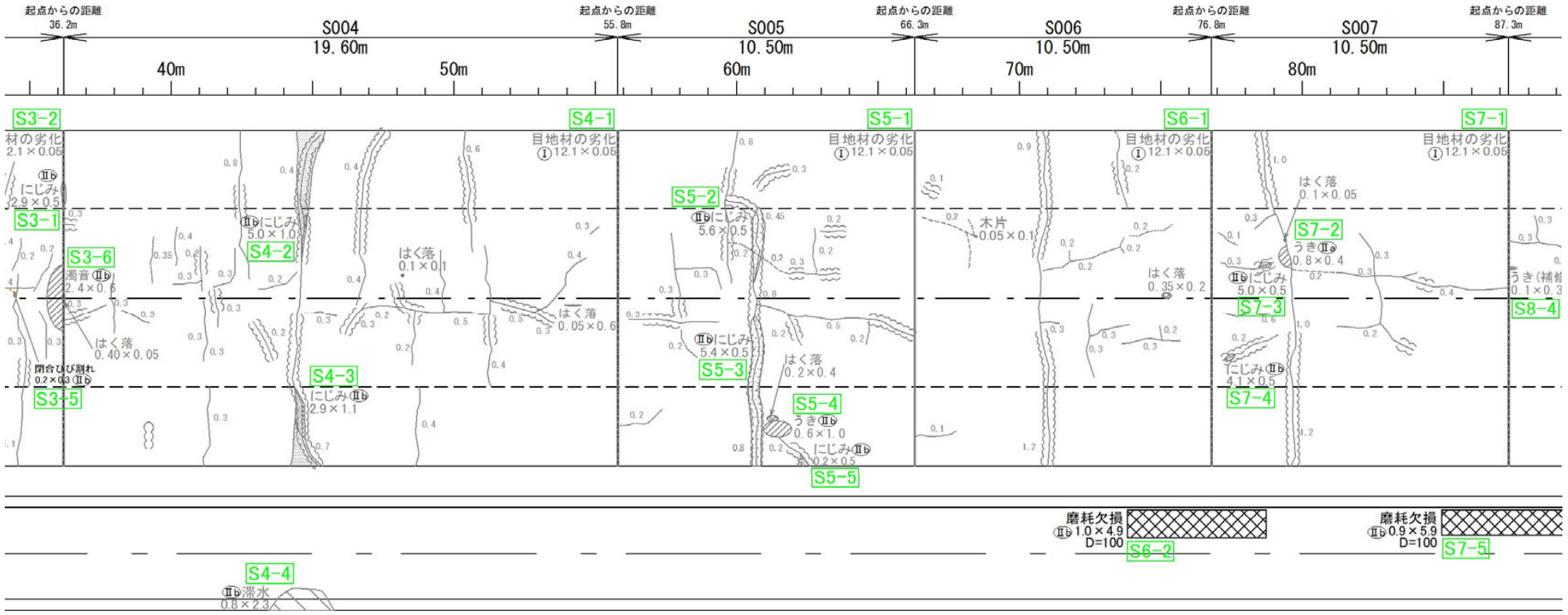


■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式B-1(a)】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

トンネル変状展開図

トンネル全体変状展開図

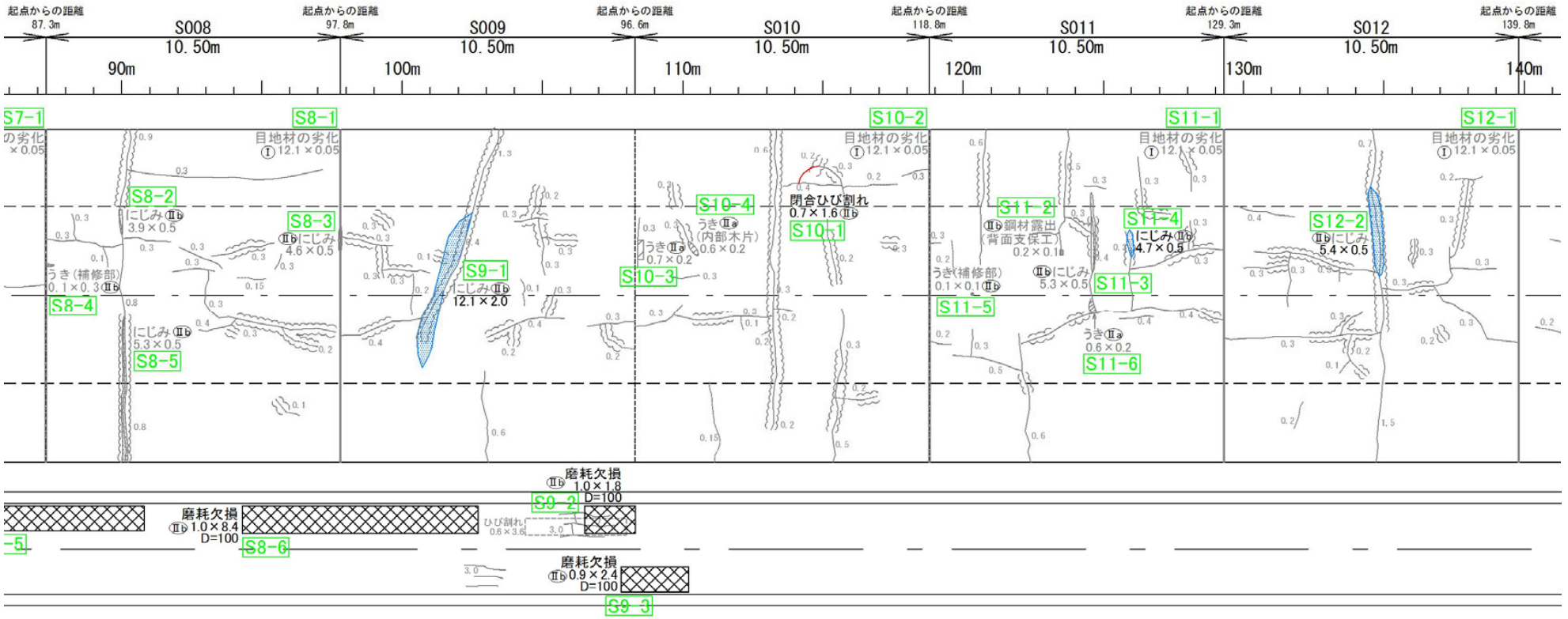


■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式B-1(a)】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

トンネル変状展開図

トンネル全体変状展開図

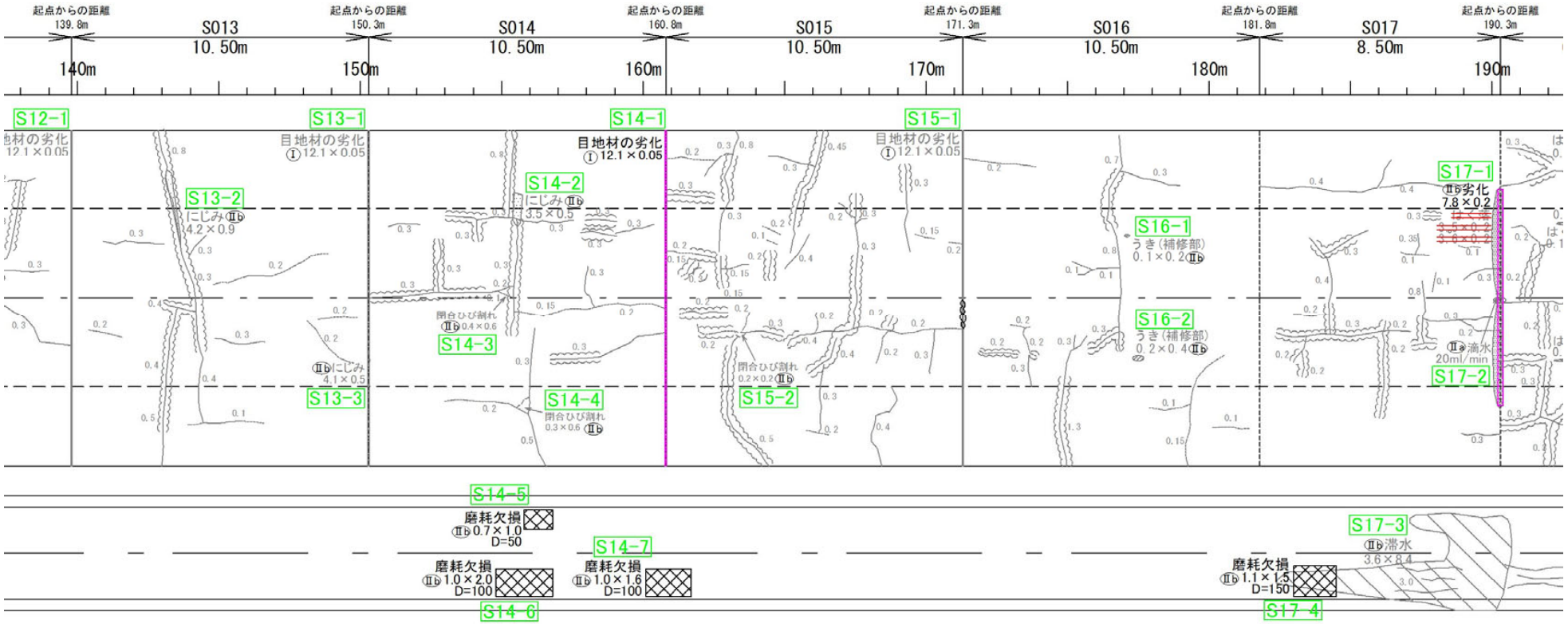


■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式B-1(a)】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

トンネル変状展開図

トンネル全体変状展開図

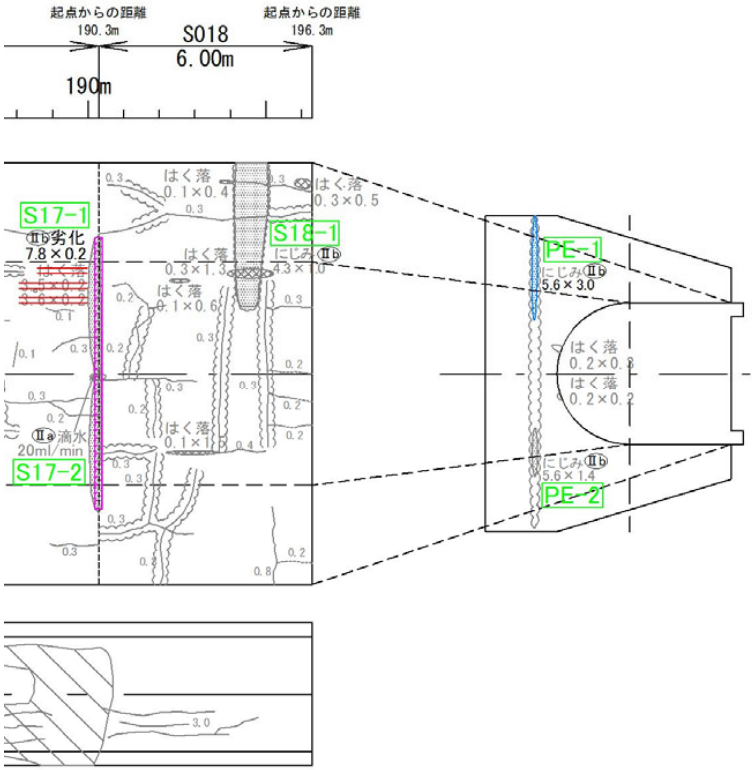


■定期点検記録様式　トンネル全体変状展開図【様式B-1(a)】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

トンネル変状展開図

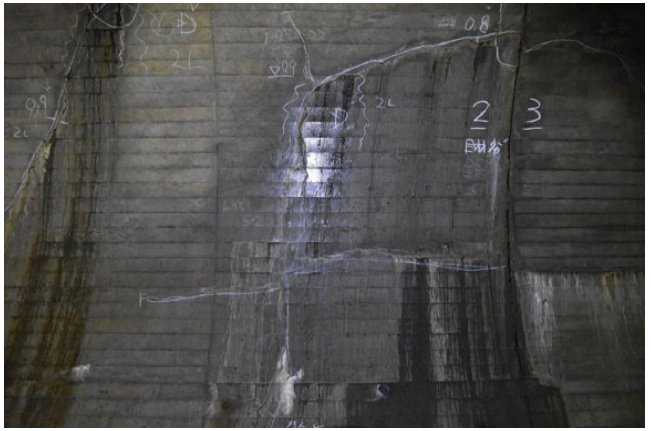
トンネル全体変状展開図



■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S001		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	1			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	側壁（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅰ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 1.6m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 1.6m×0.5m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅰ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.6m×0.5m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m		前回定期点検時の状態		にじみ 0.8m×0.2m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

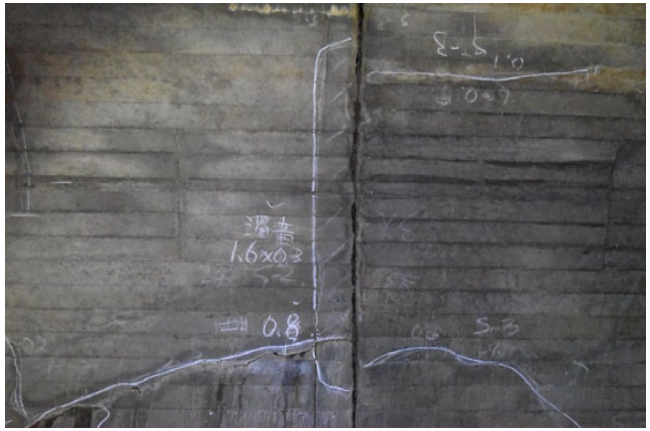
※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号 覆工スパン番号	S002
写真番号 変状番号	4
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	アーチ（天端）
変状区分	材質劣化
変状種類	うき・はく離
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	濁音 1.6m×0.3m
前回定期点検時の状態	濁音 1.6m×0.3m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S002
写真番号 変状番号	5
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	アーチ（全周）
変状区分	漏水
変状種類	漏水
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 12.1m×1.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 0.5m×0.1m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S002
写真番号 変状番号	6
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	アーチ（天端）
変状区分	材質劣化
変状種類	うき・はく離
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	濁音 1.6m×0.5m
前回定期点検時の状態	濁音 1.6m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S002
写真番号 変状番号	7
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	側壁（右側）
変状区分	漏水
変状種類	漏水
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 1.0m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 1.0m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S002		写真番号	覆工スパン番号	S002	
	変状番号	8			変状番号	9	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	車道			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		滞水		変状種類		滞水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		滞水 0.5m×2.1m		変状の発生範囲の規模		滞水 0.7m×1.6m	
前回定期点検時の状態		滞水 0.5m×2.1m		前回定期点検時の状態		滞水 0.7m×1.6m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		車道にの滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S003		写真番号	覆工スパン番号	S003	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（左側）			部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅰ	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 2.9m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 2.9m×0.5m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況(実施日) -	対策履歴		-	実施状況(実施日) -
メモ		左横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

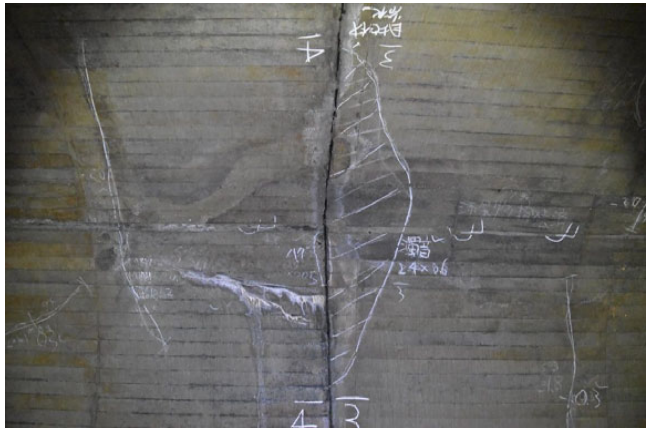
写真番号	覆工スパン番号	S003	写真番号	覆工スパン番号	S003
	変状番号	3		変状番号	4
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）		部位区分	アーチ（左側）
変状区分		漏水	変状区分		漏水
変状種類		漏水	変状種類		漏水
対策区分	応急措置前		対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb		応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ	健全性		Ⅱ
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.4m×1.4m	変状の発生範囲の規模		にじみ 5.1m×0.5m
前回定期点検時の状態		にじみ 5.4m×1.4m	前回定期点検時の状態		-
調査方針		-	調査方針		-
対策履歴		-	対策履歴		-
実施状況（実施日）		-	実施状況（実施日）		-
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。





写真番号	覆工スパン番号	S003	写真番号	覆工スパン番号	S003
	変状番号	5		変状番号	6
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）		部位区分	アーチ（天端）
変状区分		材質劣化	変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離	変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前		対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb		応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ	健全性		Ⅱ
変状の発生範囲の規模		閉合 0.2m×0.3m	変状の発生範囲の規模		濁音 2.4m×0.6m
前回定期点検時の状態		-	前回定期点検時の状態		濁音 2.4m×0.6m
調査方針		-	調査方針		-
対策履歴		-	対策履歴		-
実施状況（実施日）		-	実施状況（実施日）		-
メモ		左アーチ部の閉合ブロック化、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	メモ		アーチ天端部の濁音、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。





※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号 覆工スパン番号	S003
写真番号 変状番号	7
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	アーチ（右側）
変状区分	材質劣化
変状種類	うき・はく離
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	閉合 0.05m×0.05m
前回定期点検時の状態	閉合 0.05m×0.05m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S003
写真番号 変状番号	8
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	アーチ（右側）
変状区分	漏水
変状種類	漏水
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 6.1m×2.6m
前回定期点検時の状態	にじみ 6.1m×2.6m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S003
写真番号 変状番号	9
変状部位 対象箇所	覆工・坑門
変状部位 部位区分	側壁（右側）
変状区分	材質劣化
変状種類	ひび割れ
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	最大幅2.0mm/段差2.0mm
前回定期点検時の状態	最大幅2.0mm/段差2.0mm
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右側壁部の段差を伴うひび割れ、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号 覆工スパン番号	S003
写真番号 変状番号	10
変状部位 対象箇所	路面
変状部位 部位区分	車道
変状区分	漏水
変状種類	滞水
対策区分 応急措置前	
対策区分 応急措置後	Ⅱb
健全性	Ⅱ



変状の発生範囲の規模	滞水 0.9m×2.0m
前回定期点検時の状態	滞水 0.9m×2.0m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S004
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模	目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態	目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

写真番号	覆工スパン番号	S004
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 5.0m×1.0m
前回定期点検時の状態	にじみ 5.0m×1.0m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S004
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	側壁（右側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 2.9m×1.1m
前回定期点検時の状態	にじみ 2.9m×1.1m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S004
	変状番号	4
変状部位	対象箇所	路面
	部位区分	車道
変状区分		漏水
変状種類		滞水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	滞水 0.8m×2.3m
前回定期点検時の状態	滞水 0.8m×2.3m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S005
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模	目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態	目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

写真番号	覆工スパン番号	S005
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 5.6m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 5.6m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S005
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（右側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 5.6m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 5.6m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S005
	変状番号	4
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	側壁（右側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	うき 0.6m×1.0m
前回定期点検時の状態	うき 0.6m×1.0m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	右側壁部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

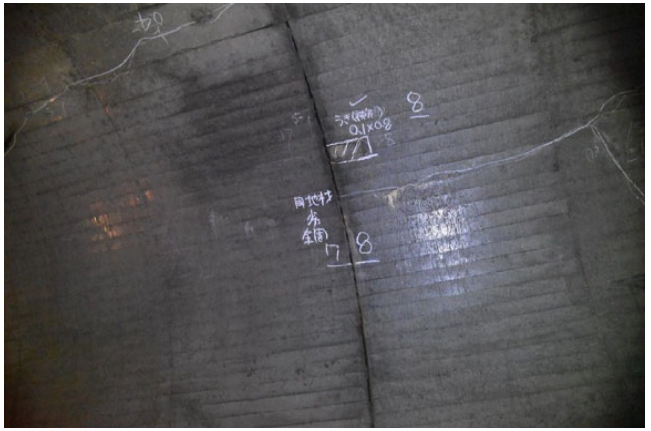
※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S005		写真番号	覆工スパン番号	S006	
	変状番号	5			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	側壁（右側）			部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅰ	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 0.2m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 0.2m×0.5m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		右側壁部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	
写真番号	覆工スパン番号	S006		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	車道			部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		その他		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅰ	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×4.9m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		-		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

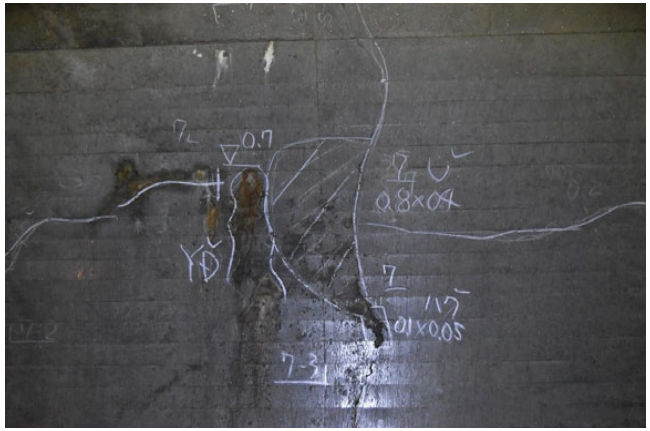
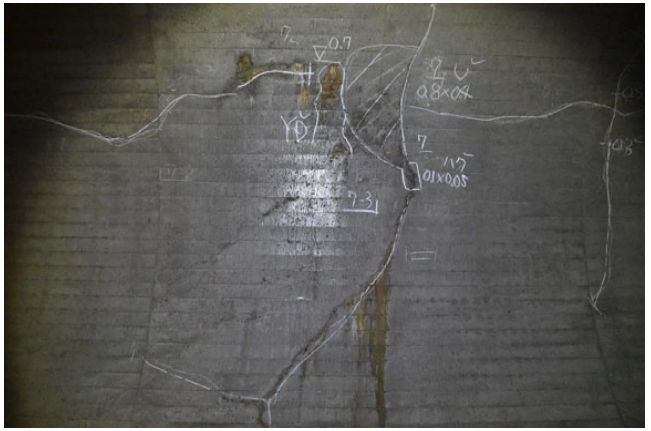
※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S007		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		うき・はく離		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱa			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		うき 0.8m×0.4m		変状の発生範囲の規模		にじみ 5.0m×0.5m	
前回定期点検時の状態		うき 0.8m×0.4m		前回定期点検時の状態		にじみ 5.0m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		左アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S007		写真番号	覆工スパン番号	S007	
	変状番号	4			変状番号	5	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ（右側）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.1m×0.5m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 0.9m×5.9m	
前回定期点検時の状態		にじみ 4.1m×0.5m		前回定期点検時の状態		－	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S008
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模	目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態	目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

写真番号	覆工スパン番号	S008
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 3.9m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 3.9m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S008
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（左側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 4.6m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 4.6m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	左アーチ横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S008
	変状番号	4
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	補修うき 0.1m×0.3m
前回定期点検時の状態	補修うき 0.1m×0.3m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況(実施日)	-
メモ	左アーチ部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S008		写真番号	覆工スパン番号	S008	
	変状番号	5			変状番号	6	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ（右側）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.3m×0.5m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×8.4m	
前回定期点検時の状態		にじみ 5.3m×0.5m		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		右アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	
写真番号	覆工スパン番号	S009		写真番号	覆工スパン番号	S009	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	アーチ（全周）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 12.1m×2.0m		変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.0m×1.8m	
前回定期点検時の状態		にじみ 12.1m×0.6m		前回定期点検時の状態		-	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S009
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	路面
	部位区分	車道
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 0.9m×2.4m
前回定期点検時の状態		−
調査方針		−
対策履歴	−	実施状況(実施日) −
メモ		車道舗装の磨耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S010
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	側壁（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



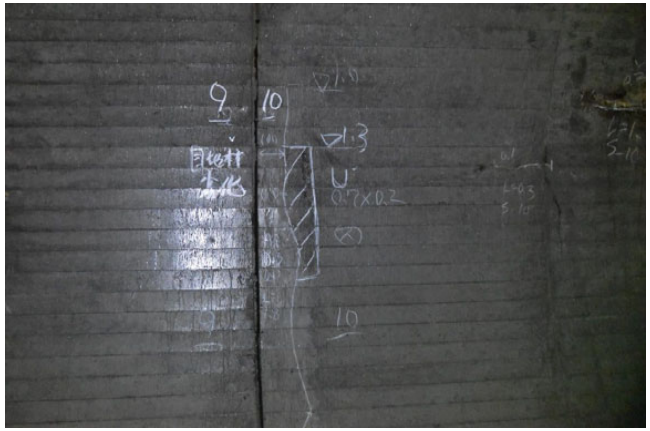
変状の発生範囲の規模		閉合 0.7m×1.6m
前回定期点検時の状態		−
調査方針		−
対策履歴	−	実施状況(実施日) −
メモ		左側壁部の閉合ブロック化、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S010
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針		−
対策履歴	−	実施状況(実施日) −
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

写真番号	覆工スパン番号	S010
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱa
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模		うき 0.7m×0.2m
前回定期点検時の状態		うき 0.7m×0.2m
調査方針		−
対策履歴	−	実施状況(実施日) −
メモ		左アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

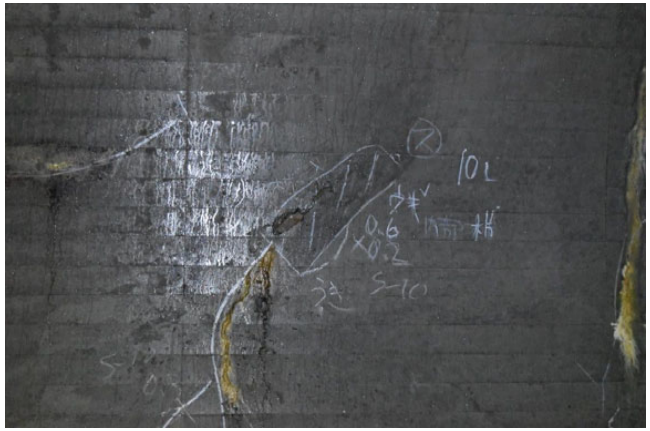
※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S010
	変状番号	4
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱa
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	うき 0.6m×0.2m
前回定期点検時の状態	うき 0.6m×0.2m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	左アーチ部のうき(内部木片)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。

写真番号	覆工スパン番号	S011
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模	目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態	目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

写真番号	覆工スパン番号	S011
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		鋼材腐食
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	鋼材露出 0.2m×0.1m
前回定期点検時の状態	鋼材露出 0.2m×0.1m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	左アーチ部の鋼材露出(H鋼支保材と思われる)、大きな変化は認められない。防錆処理実施、対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S011
	変状番号	3
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		漏水
変状種類		漏水
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	にじみ 5.3m×0.5m
前回定期点検時の状態	にじみ 5.3m×0.5m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

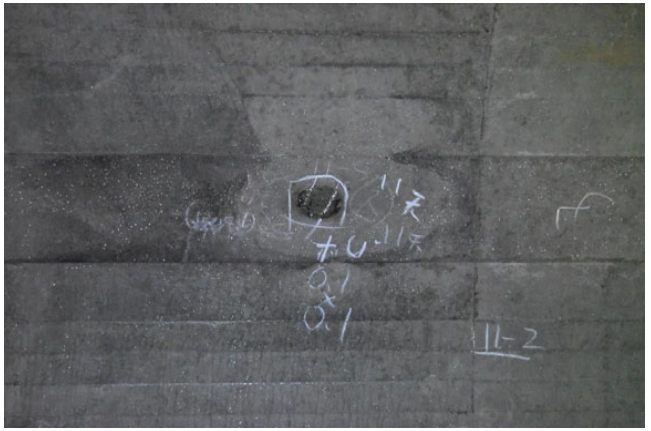
※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

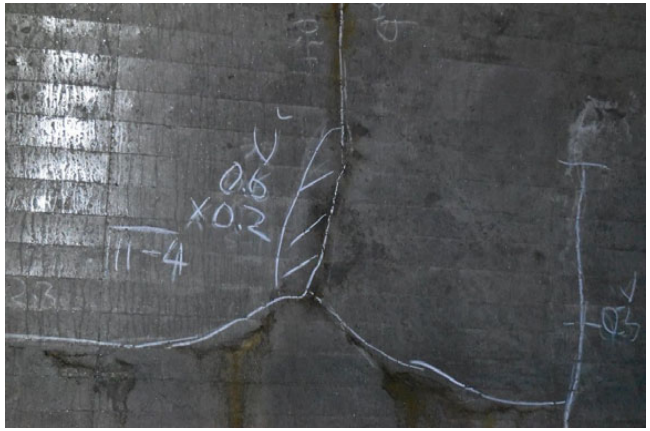
※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		漏水	
変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.7m×0.5m	
前回定期点検時の状態		－	
調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）：－
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	5	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（天端）	
変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離	
対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		補修うき 0.1m×0.1m	
前回定期点検時の状態		補修うき 0.1m×0.1m	
調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）：－
メモ		アーチ天端部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S011	
	変状番号	6	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（右側）	
変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離	
対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱa	
健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		うき 0.6m×0.2m	
前回定期点検時の状態		うき 0.6m×0.2m	
調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）：－
メモ		右アーチ部のうき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。	

写真番号	覆工スパン番号	S012	
	変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		材質劣化	
変状種類		その他	
対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ	
健全性		Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日）：－
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

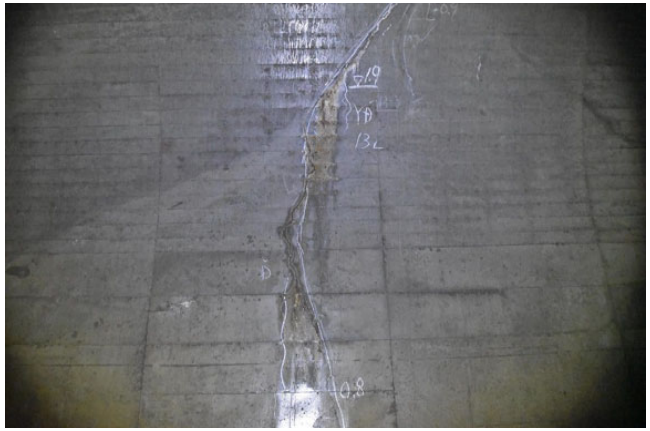
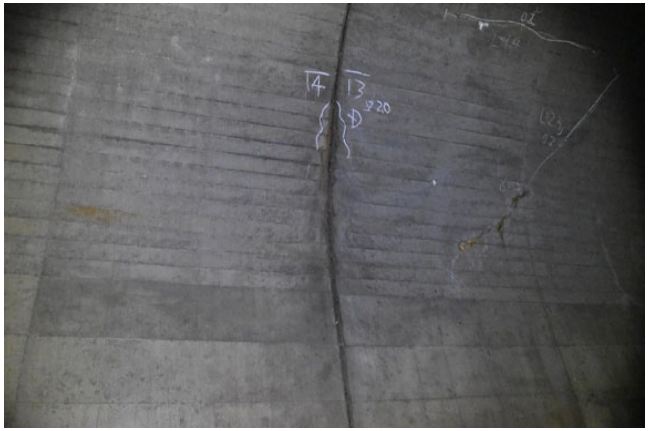
※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S012		写真番号	覆工スパン番号	S013	
	変状番号	2			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	横断目地（全周）	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		その他	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅰ	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅰ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 5.4m×0.5m		変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m	
前回定期点検時の状態		にじみ 1.9m×0.2m		前回定期点検時の状態		目地材劣化 12.1m×0.05m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。	
写真番号	覆工スパン番号	S013		写真番号	覆工スパン番号	S013	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	横断目地（右側）	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		にじみ 4.2m×0.9m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.1m×0.5m	
前回定期点検時の状態		にじみ 4.2m×0.9m		前回定期点検時の状態		にじみ 4.1m×0.5m	
調査方針		-		調査方針		-	
対策履歴		-	実施状況（実施日） -	対策履歴		-	実施状況（実施日） -
メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右アーチ横断目地部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

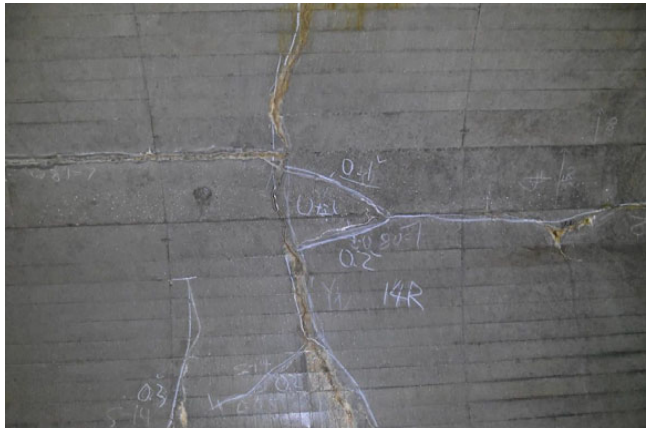
※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S014	
	変状番号	1			変状番号	2	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	横断目地（全周）			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅰ			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅰ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		目地材劣化 12.1m×0.05m		変状の発生範囲の規模		にじみ 3.5m×0.5m	
前回定期点検時の状態		－		前回定期点検時の状態		にじみ 3.5m×0.5m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		横断目地全周の目地材の劣化、新たに確認。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S014		写真番号	覆工スパン番号	S014	
	変状番号	3			変状番号	4	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	アーチ（左側）			部位区分	側壁（右側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		閉合 0.4m×0.6m		変状の発生範囲の規模		閉合 0.3m×0.6m	
前回定期点検時の状態		閉合 0.4m×0.6m		前回定期点検時の状態		閉合 0.3m×0.6m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		左アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		右側壁部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S014
	変状番号	5
変状部位	対象箇所	路面
	部位区分	車道
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	磨耗欠損 0.7m×1.0m
前回定期点検時の状態	−
調査方針	−
対策履歴	−
実施状況（実施日）	−
メモ	車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S014
	変状番号	6
変状部位	対象箇所	路面
	部位区分	車道
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	磨耗欠損 1.0m×2.0m
前回定期点検時の状態	−
調査方針	−
対策履歴	−
実施状況（実施日）	−
メモ	車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S014
	変状番号	7
変状部位	対象箇所	路面
	部位区分	車道
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	磨耗欠損 1.0m×1.6m
前回定期点検時の状態	−
調査方針	−
対策履歴	−
実施状況（実施日）	−
メモ	車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S015
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅰ
健全性		Ⅰ



変状の発生範囲の規模	目地材劣化 12.1m×0.05m
前回定期点検時の状態	目地材劣化 12.1m×0.05m
調査方針	−
対策履歴	−
実施状況（実施日）	−
メモ	横断目地全周の目地材の劣化、大きな変化は認められない。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S015
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（右側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



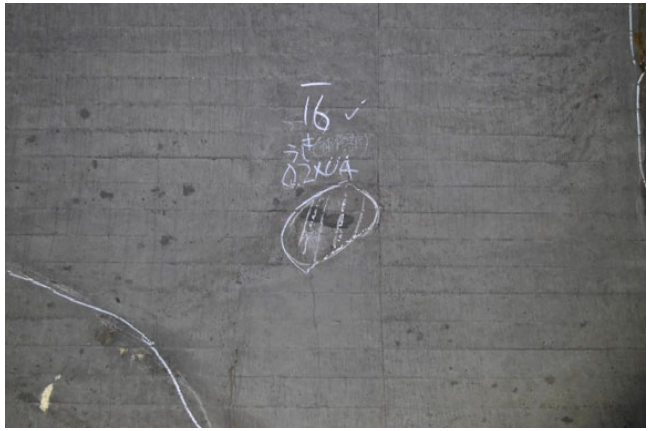
変状の発生範囲の規模	閉合 0.2m×0.2m
前回定期点検時の状態	閉合 0.2m×0.2m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右アーチ部の閉合ブロック化、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S016
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（左側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	補修うき 0.1m×0.2m
前回定期点検時の状態	補修うき 0.1m×0.2m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	左アーチ部の修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S016
	変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	アーチ（右側）
変状区分		材質劣化
変状種類		うき・はく離
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	補修うき 0.2m×0.4m
前回定期点検時の状態	補修うき 0.2m×0.4m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	右アーチ部の補修うき、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。

写真番号	覆工スパン番号	S017
	変状番号	1
変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	横断目地（全周）
変状区分		材質劣化
変状種類		その他
対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ



変状の発生範囲の規模	ｺﾝｸﾘｰﾄ劣化 7.8m×0.2m
前回定期点検時の状態	はく落 3.5m×0.2m,3.6m×0.2m
調査方針	-
対策履歴	-
実施状況（実施日）	-
メモ	横断目地全周のコンクリート劣化、若干はく落箇所の拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	S017		写真番号	覆工スパン番号	S017	
	変状番号	2			変状番号	3	
変状部位	対象箇所	覆工・坑門		変状部位	対象箇所	路面	
	部位区分	横断目地（天端）			部位区分	車道	
変状区分		漏水		変状区分		漏水	
変状種類		漏水		変状種類		滞水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱa			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		滴水 20ml/min		変状の発生範囲の規模		滞水 3.6m×8.4m	
前回定期点検時の状態		滴水 20ml/min		前回定期点検時の状態		滞水 3.6m×8.4m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		アーチ天端横断目地部の漏水(滴水)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱa。		メモ		車道の滞水、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号	S017		写真番号	覆工スパン番号	S018	
	変状番号	4			変状番号	1	
変状部位	対象箇所	路面		変状部位	対象箇所	覆工・坑門	
	部位区分	車道			部位区分	アーチ（左側）	
変状区分		材質劣化		変状区分		漏水	
変状種類		その他		変状種類		漏水	
対策区分	応急措置前			対策区分	応急措置前		
	応急措置後	Ⅱb			応急措置後	Ⅱb	
健全性		Ⅱ		健全性		Ⅱ	
変状の発生範囲の規模		磨耗欠損 1.1m×1.5m		変状の発生範囲の規模		にじみ 4.3m×1.0m	
前回定期点検時の状態		－		前回定期点検時の状態		にじみ 4.3m×1.0m	
調査方針		－		調査方針		－	
対策履歴		－	実施状況（実施日） －	対策履歴		－	実施状況（実施日） －
メモ		車道舗装の摩耗による欠損、新たに確認。対策区分の判定Ⅱb。		メモ		左アーチ部の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　変状写真台帳【様式様式C-1-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

写真番号	覆工スパン番号	PE	写真番号	覆工スパン番号	PE
	変状番号	1		変状番号	2
変状部位	対象箇所	覆工・坑門	変状部位	対象箇所	覆工・坑門
	部位区分	面壁・妻壁等		部位区分	面壁・妻壁等
変状区分		漏水	変状区分		漏水
変状種類		漏水	変状種類		漏水
対策区分	応急措置前		対策区分	応急措置前	
	応急措置後	Ⅱb		応急措置後	Ⅱb
健全性		Ⅱ	健全性		Ⅱ





変状の発生範囲の規模	にじみ 5.6m×3.0m		変状の発生範囲の規模	にじみ 5.6m×1.4m	
前回定期点検時の状態	にじみ 5.6m×1.4m		前回定期点検時の状態	にじみ 5.6m×1.4m	
調査方針	-		調査方針	-	
対策履歴	-	実施状況(実施日) -	対策履歴	-	実施状況(実施日) -
メモ	面壁の漏水(にじみ)、若干範囲拡大が認められた。対策区分の判定Ⅱb。		メモ	面壁の漏水(にじみ)、大きな変化は認められない。対策区分の判定Ⅱb。	

写真番号	覆工スパン番号		写真番号	覆工スパン番号	
	変状番号			変状番号	
変状部位	対象箇所		変状部位	対象箇所	
	部位区分			部位区分	
変状区分			変状区分		
変状種類			変状種類		
対策区分	応急措置前		対策区分	応急措置前	
	応急措置後			応急措置後	
健全性			健全性		

変状の発生範囲の規模			変状の発生範囲の規模		
前回定期点検時の状態			前回定期点検時の状態		
調査方針			調査方針		
対策履歴		実施状況(実施日)	対策履歴		実施状況(実施日)
メモ			メモ		

※　健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※　たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※　変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

■定期点検記録様式　異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）【様式C-1-2】

フリガナ	サクタズイドウ		路 線 名	作田防災ダム線		定期点検業者名	株式会社 復建技術コンサルタント		定期点検年月日	2023年9月5日	
名　称	作田隧道		管理者名	青森県 七戸町		定期点検員名	二木 茂樹				
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分	
異常の種類				異常の種類				異常の種類			
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分	
異常の種類				異常の種類				異常の種類			
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分		対象箇所		部位区分	
異常の種類				異常の種類				異常の種類			
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	

※　異常判定区分×について記入すること。また、応急措置前に異常判定区分×とした箇所のうち応急措置により〇と判定した箇所も記入すること。

※　応急措置を実施した場合は、その実施状況が分かる写真を添付すること。

■定期点検記録様式　全スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）【様式C-2-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

	覆工スパン番号	変状番号	距離（m）	変状部位		変状の内容				前回定期点検時の状態		今回定期点検結果				措置履歴		対応方針・特記事項
				対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	変状の発生範囲の規模	前回定期点検時との比較	状態	健全性	対策区分		調査の要否	措置の要否	実施	措置の実施状況	
												応急措置前	応急措置後					
定期点検結果	S001	1	10.20	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	否	否			
	S002	1	14.00	覆工・坑門	側壁（左側）	漏水	漏水	にじみ 1.6m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	2	16.40	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	否	否			
	S002	3	14.80	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 4.6m×0.5m	進行が認められる	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	4	16.20	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	濁音 1.6m×0.3m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	5	13.60	覆工・坑門	アーチ（全周）	漏水	漏水	にじみ 12.1m×1.5m	進行が認められる	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	6	13.20	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	濁音 1.6m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	7	16.40	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	にじみ 1.0m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	8	14.80	路面	車道	漏水	滞水	滞水 0.5m×2.1m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S002	9	18.00	路面	車道	漏水	滞水	滞水 0.7m×1.6m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	1	36.20	覆工・坑門	横断目地（左側）	漏水	漏水	にじみ 2.9m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	2	36.20	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S003	3	28.00	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.4m×1.4m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	4	31.50	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.1m×0.5m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	5	34.30	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.2m×0.3m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	6	35.60	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	濁音 2.4m×0.6m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	7	33.70	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.05m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	8	28.00	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	にじみ 6.1m×2.6m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	9	29.80	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	ひび割れ	最大幅2.0mm/段差2.0mm	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S003	10	28.00	路面	車道	漏水	滞水	滞水 0.9m×2.0m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S004	1	55.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S004	2	44.80	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.0m×1.0m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S004	3	44.40	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	にじみ 2.9m×1.1m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S004	4	43.50	路面	車道	漏水	滞水	滞水 0.8m×2.3m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S005	1	66.30	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S005	2	59.70	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.6m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S005	3	60.50	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	にじみ 5.6m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S005	4	61.00	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	うき・はく離	うき 0.6m×1.0m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S005	5	62.30	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	にじみ 0.2m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S006	1	76.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S006	2	73.80	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.0m×4.9m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－

※　対策区分（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて記入すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された変状も記入すること。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

※　変状の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。

※　１区間の覆工に複数の変状がある場合は、変状箇所毎に記入すること。

■定期点検記録様式　全スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）【様式C-2-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

	覆工スパン番号	変状番号	距離（m）	変状部位		変状の内容				前回定期点検時の状態		今回定期点検結果				措置履歴		対応方針・特記事項
				対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	変状の発生範囲の規模	前回定期点検時との比較	状態	健全性	対策区分		調査の要否	措置の要否	実施	措置の実施状況	
												応急措置前	応急措置後					
定期点検結果	S007	1	87.30	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	否	否			
	S007	2	79.20	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	うき 0.8m×0.4m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱa	Ⅱ		Ⅱa	否	要	継続	監視（重点）	計画的な対策
	S007	3	78.50	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.0m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S007	4	79.00	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	にじみ 4.1m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S007	5	84.90	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 0.9m×5.9m	新規確認	－	－		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S008	1	97.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S008	2	89.90	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 3.9m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S008	3	97.80	覆工・坑門	横断目地（左側）	漏水	漏水	にじみ 4.6m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S008	4	87.30	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	補修うき 0.1m×0.3m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S008	5	90.20	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	にじみ 5.3m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S008	6	94.30	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.0m×8.4m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S009	1	101.20	覆工・坑門	アーチ（全周）	漏水	漏水	にじみ 12.1m×2.0m	進行が認められる	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S009	2	106.50	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.0m×1.8m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S009	3	107.80	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 0.9m×2.4m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S010	1	114.20	覆工・坑門	側壁（左側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.7m×1.6m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S010	2	118.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S010	3	108.40	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	うき 0.7m×0.2m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱa	Ⅱ		**Ⅱa**	否	要	継続	監視（重点）	計画的な対策
	S010	4	110.30	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	うき 0.6m×0.2m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱa	Ⅱ		**Ⅱa**	否	要	継続	監視（重点）	計画的な対策
	S011	1	129.30	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S011	2	123.40	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	鋼材腐食	鋼材露出 0.2m×0.1m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S011	3	124.50	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.3m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S011	4	125.80	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 4.7m×0.5m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S011	5	120.30	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	補修うき 0.1m×0.1m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S011	6	124.40	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	うき 0.6m×0.2m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱa	Ⅱ		**Ⅱa**	否	要	継続	監視（重点）	計画的な対策
	S012	1	139.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S012	2	134.40	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 5.4m×0.5m	進行が認められる	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S013	1	150.30	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	S013	2	143.20	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 4.2m×0.9m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S013	3	150.20	覆工・坑門	横断目地（右側）	漏水	漏水	にじみ 4.1m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	S014	1	160.80	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	新規確認	－	－		**Ⅰ**	否	否			
	S014	2	155.30	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 3.5m×0.5m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－

※　対策区分（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて記入すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された変状も記入すること。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

※　変状の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。

※　１区間の覆工に複数の変状がある場合は、変状箇所毎に記入すること。

■定期点検記録様式　全スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）【様式C-2-1】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

定期点検結果	覆工スパン番号	変状番号	距離(m)	変状部位		変状の内容				前回定期点検時の状態		今回定期点検結果				措置履歴		対応方針・特記事項
				対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	変状の発生範囲の規模	前回定期点検時との比較	状態	健全性	対策区分		調査の要否	措置の要否	実施	措置の実施状況	
												応急措置前	応急措置後					
	SO14	3	154.80	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.4m×0.6m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO14	4	155.50	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.3m×0.6m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO14	5	155.80	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 0.7m×1.0m	新規確認	－	－		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO14	6	154.80	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.0m×2.0m	新規確認	－	－		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO14	7	160.10	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.0m×1.6m	新規確認	－	－		Ⅱb	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO15	1	171.30	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	目地材劣化 12.1m×0.05m	進行が認められない	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅰ**	否	否			
	SO15	2	163.30	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	閉合 0.2m×0.2m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO16	1	179.20	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	補修うき 0.1m×0.2m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO16	2	178.70	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	補修うき 0.2m×0.4m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO17	1	190.20	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	コンクリート劣化 7.8m×0.2m	進行が認められる	対策区分判定Ⅰ	Ⅰ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO17	2	189.90	覆工・坑門	横断目地（天端）	漏水	漏水	滴水 20ml/min	進行が認められない	対策区分判定Ⅱa	Ⅱ		**Ⅱa**	否	要	継続	監視（重点）	計画的な対策
	SO17	3	182.40	路面	車道	漏水	滞水	滞水 3.6m×8.4m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO17	4	183.00	路面	車道	材質劣化	その他	磨耗欠損 1.1m×1.5m	新規確認	－	－		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	SO18	1	194.10	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	にじみ 4.3m×1.0m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	PE	1	196.30	覆工・坑門	面壁・妻壁等	漏水	漏水	にじみ 5.6m×3.0m	進行が認められる	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－
	PE	2	196.30	覆工・坑門	面壁・妻壁等	漏水	漏水	にじみ 5.6m×1.4m	進行が認められない	対策区分判定Ⅱb	Ⅱ		**Ⅱb**	否	要	継続	監視（日常巡視）	－

※　対策区分（応急措置後）の判定区分Ⅱ～Ⅳについて記入すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された変状も記入すること。

※　応急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

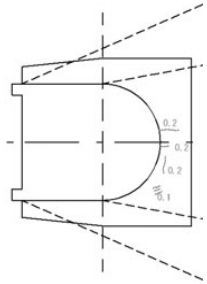
※　変状の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。

※　１区間の覆工に複数の変状がある場合は、変状箇所毎に記入すること。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	PS	スパン長	0	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	

集計・判定・診断			変状の発生規模合計(㎡)				―												計
対策区分の判定結果		判定区分毎の変状数																	
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅰ				Ⅰ				
健全性の診断結果		判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]																	
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅰ				Ⅰ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅰ												

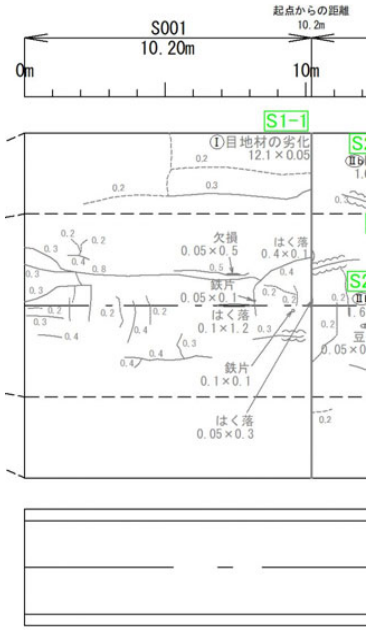
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号		S001	スパン長	10.2m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														

集計・判定・診断			変状の発生規模合計(㎡)														計
							―										
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数															
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅰ				Ⅰ		
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ
		判定区分毎の変状数[注4]															
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅰ				Ⅰ		
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅰ										

特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

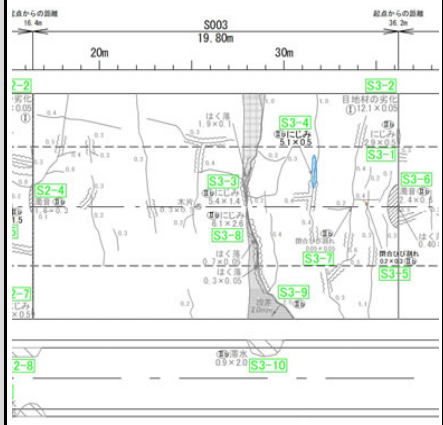
スパン番号	S002	スパン長	6.2m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	側壁（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													0.80	
2	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.30	
4	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.48					
5	覆工・坑門	アーチ（全周）	漏水	漏水	Ⅱ													18.15	
6	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.80					
7	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													0.50	
8	路面	車道	漏水	滞水	Ⅱ													1.00	
9	路面	車道	漏水	滞水	Ⅱ													1.00	
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)					―							1.28				23.75	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数											2				6	
		変状区分毎の判定区分[注3]				Ⅰ				Ⅱb				Ⅱb				
	健全性の診断結果	判定区分				Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]										2				6		
		変状区分毎の判定区分[注4]				Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]				Ⅱ												
特記事項																		

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S003	スパン長	19.8m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													1.45	
2	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													7.56	
4	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	－													2.55	
5	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	－									0.06					
6	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									1.44					
7	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.01					
8	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													15.86	
9	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	ひび割れ	Ⅱ									0.01					
10	路面	車道	漏水	滞水	Ⅱ													1.00	
変状の発生規模合計(㎡)						－								1.52				28.42	計

集計・判定・診断												
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数							4				5	
	変状区分毎の判定区分[注3]	Ⅰ			Ⅱb			Ⅱb				
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
	判定区分毎の変状数[注4]						4			5		
	変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ			Ⅱ			Ⅱ				
	覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ										

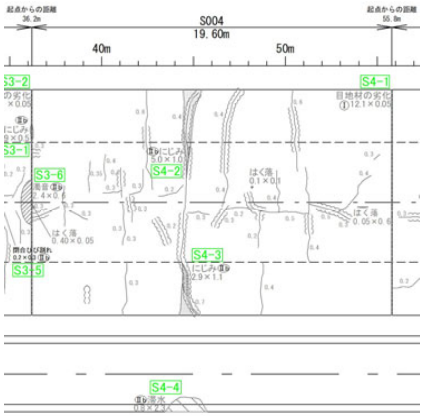
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号：S004　スパン長：19.6m

変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	外力 Ⅳ	外力 Ⅲ	外力 Ⅱa	外力 Ⅱb	材質劣化 Ⅳ	材質劣化 Ⅲ	材質劣化 Ⅱa	材質劣化 Ⅱb	漏水 Ⅳ	漏水 Ⅲ	漏水 Ⅱa	漏水 Ⅱb	備考注2
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													5.00	
3	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													3.19	
4	路面	車道	漏水	滞水	Ⅱ													1.00	

（列見出し：対策区分毎の変状の有無（外力注1）／対策区分毎の変状の発生範囲の規模(m²)（材質劣化注1・漏水注1））

集計・判定・診断		外力 Ⅳ	外力 Ⅲ	外力 Ⅱa	外力 Ⅱb	材質劣化 Ⅳ	材質劣化 Ⅲ	材質劣化 Ⅱa	材質劣化 Ⅱb	漏水 Ⅳ	漏水 Ⅲ	漏水 Ⅱa	漏水 Ⅱb	
変状の発生規模合計(m²)		—											9.19	計
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												3	
対策区分の判定結果	変状区分毎の判定区分注3	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱb				
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
健全性の診断結果	判定区分毎の変状数注4											3		
健全性の診断結果	変状区分毎の判定区分注4	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱ				
健全性の診断結果	覆工スパン単位の判定区分注5	Ⅱ												

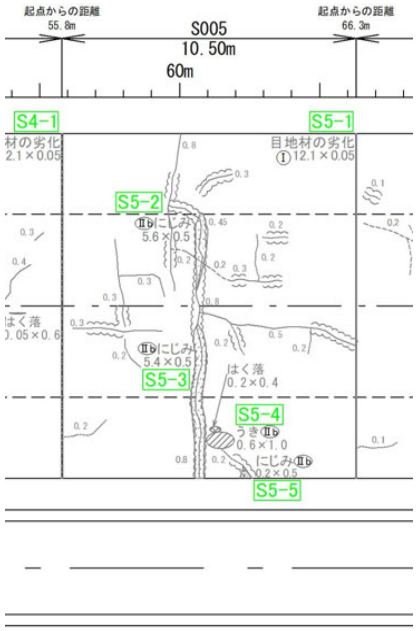
特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S005	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.80	
3	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.80	
4	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.60					
5	覆工・坑門	側壁（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													0.10	

集計・判定・診断			変状の発生規模合計(㎡)														計
				―							0.60					5.70	
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数								1					3	
		変状区分毎の判定区分[注3]		Ⅰ			Ⅱb				Ⅱb					
	健全性の診断結果	判定区分		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ					
		判定区分毎の変状数[注4]							1				3				
		変状区分毎の判定区分[注4]		Ⅰ			Ⅱ			Ⅱ							
		覆工スパン単位の判定区分[注5]		Ⅱ													

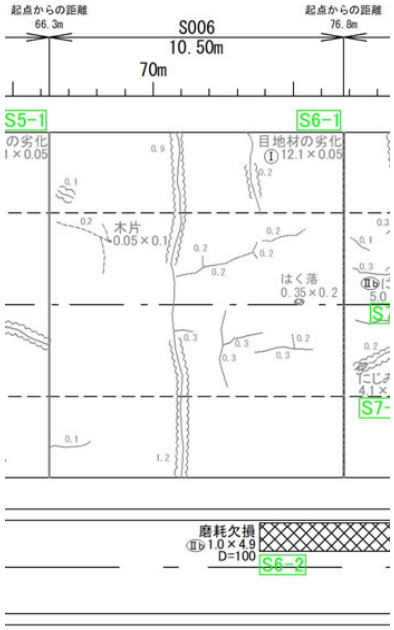
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S006	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	路面	車道	材質劣化	その他	－									4.90					

集計・判定・診断														計
変状の発生規模合計(㎡)						－							4.90					
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												1					
	変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱb				Ⅰ				
健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
	判定区分毎の変状数[注4]											1						
	変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅰ				
	覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												

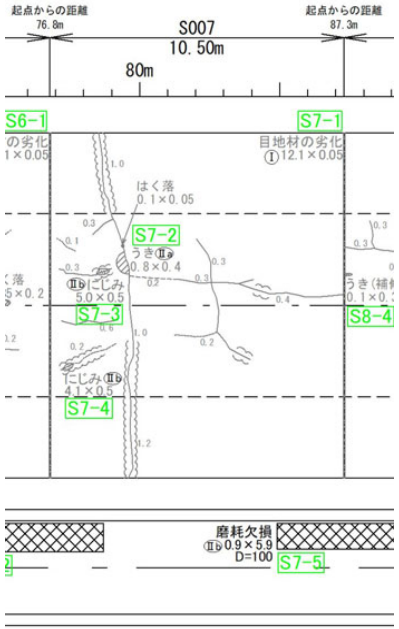
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

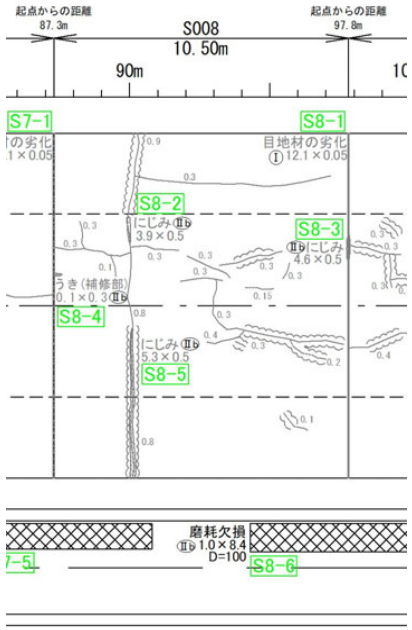
スパン番号		S007	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ								0.32						
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.50	
4	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.05	
5	路面	車道	材質劣化	その他	－									5.31					
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)												0.32	5.31				4.55	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数											1	1				2	
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱa				Ⅱb				
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]											2				2		
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												
特記事項																			

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

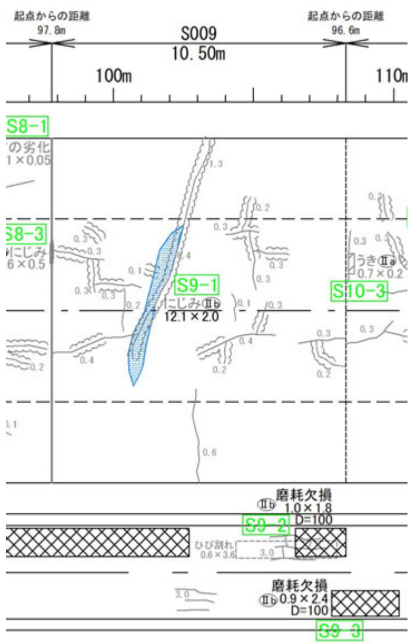
スパン番号		S008	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													1.95	
3	覆工・坑門	横断目地（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.30	
4	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.03					
5	覆工・坑門	アーチ（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.65	
6	路面	車道	材質劣化	その他	－									8.40					
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)						―							8.43				6.90	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												2				3	
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱb				Ⅱb				
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]											2				3		
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												
特記事項																			

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S009	スパン長	10.5m																
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無 外力[注1]				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡) 材質劣化[注1]				漏水[注1]				備考[注2]
							Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	アーチ（全周）	漏水	漏水	Ⅱ													24.20	
2	路面	車道	材質劣化	その他	－									1.80					
3	路面	車道	材質劣化	その他	－									2.16					

集計・判定・診断		外力				材質劣化				漏水				
変状の発生規模合計(㎡)		—							3.96				24.20	計
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数								2				1	
	変状区分毎の判定区分[注3]	Ⅰ				Ⅱb				Ⅱb				
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
	判定区分毎の変状数[注4]							2				1		
	変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
	覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ												

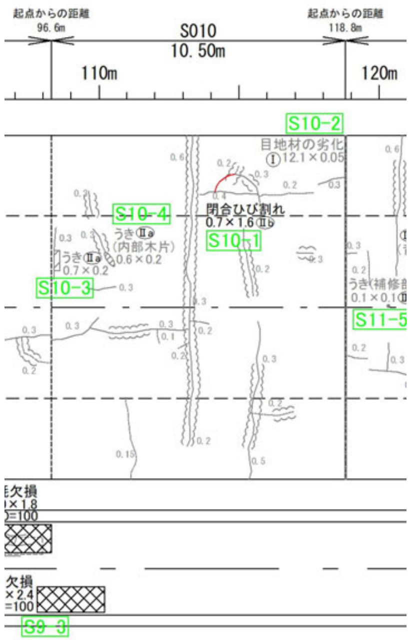
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	外力[注1] Ⅳ	外力 Ⅲ	外力 Ⅱa	外力 Ⅱb	材質劣化[注1] Ⅳ	材質劣化 Ⅲ	材質劣化 Ⅱa	材質劣化 Ⅱb	漏水[注1] Ⅳ	漏水 Ⅲ	漏水 Ⅱa	漏水 Ⅱb	備考[注2]
スパン番号 S010		スパン長 10.5m																	
1	覆工・坑門	側壁（左側）	材質劣化	うき・はく離	−									1.12					
2	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ								0.14						
4	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ								0.12						

Column groups: 対策区分毎の変状の有無 = 外力; 対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡) = 材質劣化, 漏水.

集計・判定・診断			外力 Ⅳ	外力 Ⅲ	外力 Ⅱa	外力 Ⅱb	材質劣化 Ⅳ	材質劣化 Ⅲ	材質劣化 Ⅱa	材質劣化 Ⅱb	漏水 Ⅳ	漏水 Ⅲ	漏水 Ⅱa	漏水 Ⅱb	
	変状の発生規模合計(㎡)		—						0.26	1.12					計
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数								2	1					
	変状区分毎の判定区分[注3]		Ⅰ				Ⅱa				Ⅰ				

健全性の診断結果		外力 Ⅳ	外力 Ⅲ	外力 Ⅱ	材質劣化 Ⅳ	材質劣化 Ⅲ	材質劣化 Ⅱ	漏水 Ⅳ	漏水 Ⅲ	漏水 Ⅱ
	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ
	判定区分毎の変状数[注4]						3			
	変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ			Ⅱ			Ⅰ		
	覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ								

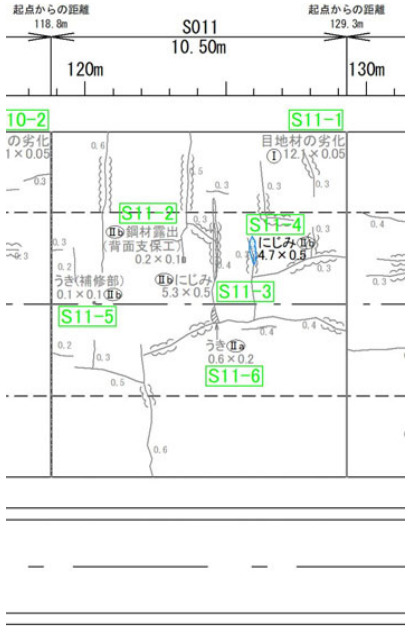
特記事項	

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S011	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無 外力[注1]				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡) 材質劣化[注1]				漏水[注1]				備考[注2]
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	鋼材腐食	Ⅱ								0.02						
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.65	
4	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	－													2.35	
5	覆工・坑門	アーチ（天端）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ								0.01						
6	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ								0.12						
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)						－						0.12	0.03				5.00	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数											1	2				2	
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱa				Ⅱb				
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]											3				2		
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												
特記事項																			

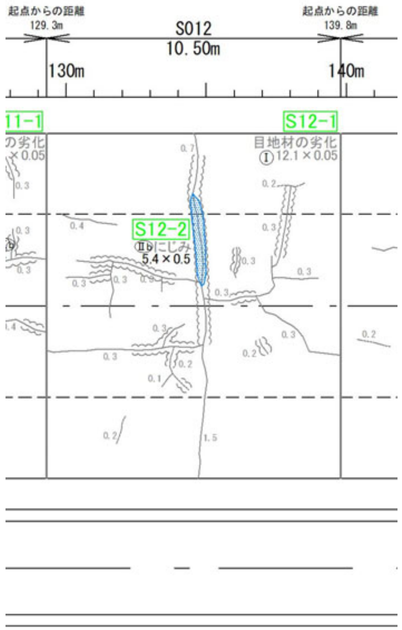
注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

※1：本シートは作成洩れのないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること．また変状展開図は、様式D-2-1、様式D-2-1'と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。
※2：変状番号は、様式D-1-1で記入した番号と整合させること。
※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため対象外とし、備考欄に状況を記入）。
※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。
※5：変状数が多い場合は、適時、表の行を増やして覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。また、1スパン１シートとし、スパンに合わせてシートを追加すること。
※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは，対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり，変状を包含する長さや面積とする。
※7：路面滞水は、変状面積に1を記載するとともに、備考にも内容を記載すること。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S012	スパン長	10.5m				対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)									
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	外力注1				材質劣化注1				漏水注1				備考注2
							Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.70	

		外力				材質劣化				漏水				
変状の発生規模合計(㎡)		―											2.70	計
集計・判定・診断 / 対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												1	
	変状区分毎の判定区分注3	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱb				
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
	判定区分毎の変状数注4											1		
	変状区分毎の判定区分注4	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱ				
	覆工スパン単位の判定区分注5	Ⅱ												

特記事項

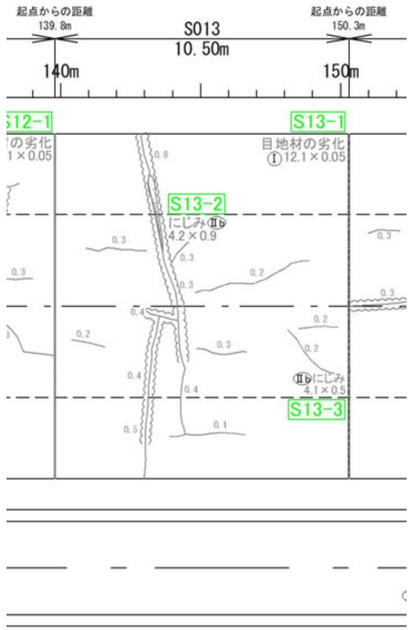
注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

※1：本シートは作成洩れのないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること．また変状展開図は、様式D-2-1、様式D-2-1'と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。
※2：変状番号は、様式D-1-1で記入した番号と整合させること。
※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため対象外とし、備考欄に状況を記入）。
※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。
※5：変状数が多い場合は、適時、表の行を増やして覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。また、1スパン１シートとし、スパンに合わせてシートを追加すること。
※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは，対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり，変状を包含する長さや面積とする。
※7：路面滞水は、変状面積に1を記載するとともに、備考にも内容を記載すること。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S013	スパン長	10.5m		前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無 外力[注1]				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡) 材質劣化[注1]				漏水[注1]				備考[注2]
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													3.78	
3	覆工・坑門	横断目地（右側）	漏水	漏水	Ⅱ													2.05	

集計・判定・診断		外力				材質劣化				漏水				
変状の発生規模合計(㎡)		―											5.83	計
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												2	
対策区分の判定結果	変状区分毎の判定区分[注3]	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱb				
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
健全性の診断結果	判定区分毎の変状数[注4]											2		
健全性の診断結果	変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ				Ⅰ				Ⅱ				
覆工スパン単位の判定区分[注5]		Ⅱ												

特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

※1：本シートは作成洩れのないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること．また変状展開図は、様式D-2-1、様式D-2-1'と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。
※2：変状番号は、様式D-1-1で記入した番号と整合させること。
※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため対象外とし、備考欄に状況を記入）。
※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。
※5：変状数が多い場合は、適時、表の行を増やして覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。また、1スパン１シートとし、スパンに合わせてシートを追加すること。
※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは，対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり，変状を包含する長さや面積とする。
※7：路面滞水は、変状面積に1を記載するとともに、備考にも内容を記載すること。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

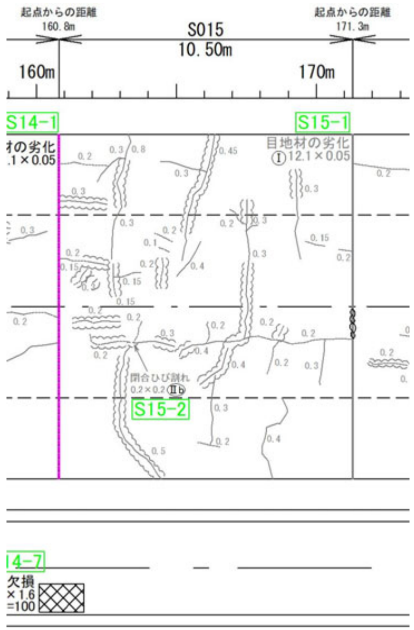
スパン番号		S014	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	－														
2	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ													1.75	
3	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.01					
4	覆工・坑門	側壁（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.01					
5	路面	車道	材質劣化	その他	－									0.70					
6	路面	車道	材質劣化	その他	－									2.00					
7	路面	車道	材質劣化	その他	－									1.60					
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)						―							4.32				1.75	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												5				1	
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱb				Ⅱb				
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]											5				1		
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												
特記事項																			

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S015	スパン長	10.5m																
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無 外力[注1]				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡) 材質劣化[注1]				漏水[注1]				備考[注2]
							Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ														
2	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.01					

集計・判定・診断			外力				材質劣化				漏水				備考
	変状の発生規模合計(㎡)		—							0.01					計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数								1					
		変状区分毎の判定区分[注3]	Ⅰ				Ⅱb				Ⅰ				
	健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]							1						
		変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ				Ⅱ				Ⅰ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ												

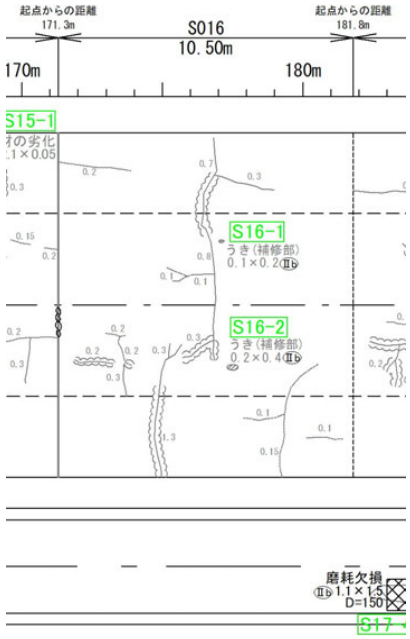
特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S016	スパン長	10.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	アーチ（左側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.02					
2	覆工・坑門	アーチ（右側）	材質劣化	うき・はく離	Ⅱ									0.08					

集計・判定・診断			外力				材質劣化				漏水				計
変状の発生規模合計(㎡)			―							0.10					
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数									2					
	変状区分毎の判定区分[注3]		Ⅰ				Ⅱb				Ⅰ				
健全性の診断結果	判定区分		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
	判定区分毎の変状数[注4]								2						
	変状区分毎の判定区分[注4]		Ⅰ				Ⅱ				Ⅰ				
	覆工スパン単位の判定区分[注5]		Ⅱ												

特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号		S017	スパン長	8.5m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	横断目地（全周）	材質劣化	その他	Ⅰ									1.56					
2	覆工・坑門	横断目地（天端）	漏水	漏水	Ⅱ												6.05		
3	路面	車道	漏水	滞水	Ⅱ													1.00	
4	路面	車道	材質劣化	その他	－									1.65					
集計・判定・診断	変状の発生規模合計(㎡)						―							3.21			6.05	1.00	計
	対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数								2						1	1		
		変状区分毎の判定区分[注3]					Ⅰ				Ⅱb				Ⅱa				
	健全性の診断結果	判定区分					Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		
		判定区分毎の変状数[注4]											2				2		
		変状区分毎の判定区分[注4]					Ⅰ				Ⅱ				Ⅱ				
		覆工スパン単位の判定区分[注5]					Ⅱ												
特記事項																			

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号	S018	スパン長	6.0m	前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
						外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類														
						Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	アーチ（左側）	漏水	漏水	Ⅱ												4.30	

集計・判定・診断														
変状の発生規模合計(㎡)					―								4.30	計
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数												1	
	変状区分毎の判定区分[注3]				Ⅰ				Ⅰ				Ⅱb	
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ			
	判定区分毎の変状数[注4]										1			
	変状区分毎の判定区分[注4]	Ⅰ			Ⅰ				Ⅱ					
	覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ												

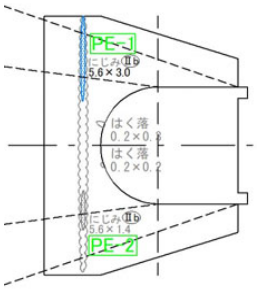
特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　覆工スパン別変状詳細展開図【様式C-3】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

スパン別変状展開図



【健全性判定集計表】

スパン番号		PE	スパン長		前回定期点検時の健全性	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)								備考[注2]
							外力[注1]				材質劣化[注1]				漏水[注1]				
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	
1	覆工・坑門	面壁・妻壁等	漏水	漏水	Ⅱ													16.80	
2	覆工・坑門	面壁・妻壁等	漏水	漏水	Ⅱ													7.84	

集計・判定・診断																計
変状の発生規模合計(㎡)															24.64	
対策区分の判定結果	判定区分毎の変状数														2	
	変状区分毎の判定区分[注3]		Ⅰ			Ⅰ			Ⅱb							
健全性の診断結果	判定区分	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ						
	判定区分毎の変状数[注4]									2						
	変状区分毎の判定区分[注4]		Ⅰ			Ⅰ			Ⅱ							
	覆工スパン単位の判定区分[注5]	Ⅱ														

特記事項

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。
注2：応急対策を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。
注3：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。
注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分．外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。
注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とする。

■定期点検記録様式　状態の把握の内容【様式C-4】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

状態の把握の内容							
覆工スパン番号	変状番号	年月日	内容	結果	対策区分の判定	健全性

注）状態の把握において、微破壊・非破壊検査や各種試験等を実施した場合について記載する。

■定期点検記録様式　近接目視による状態の把握が不可能な箇所【様式C-5】

フリガナ	サクタズイドウ	路 線 名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		

覆工スパン番号	対象箇所	不可能な理由	対応策

注）近接目視又は打音、触診ができない個所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。

■診断調書 診断結果（変状単位・覆工スパン毎・トンネル毎）【様式C-6】

フリガナ	サクタズイドウ	路線名	作田防災ダム線	定期点検業者	株式会社 復建技術コンサルタント	定期点検年月日	2023年9月5日
名　称	作田隧道	管理者名	青森県 七戸町	定期点検者名	二木 茂樹		
【覆工スパン毎の変状数，健全性の診断，変状規模】						トンネル毎の健全性	Ⅱ

覆工スパン番号	スパン長（m）	変状数																				覆工スパン毎の健全性の診断				変状規模											
		対策区分の判定												変状等の健全性の判断（変状単位）注1												覆工スパン長（m）				変状の発生範囲の規模（㎡）							
		外力				材質劣化				漏水				外力			材質劣化			漏水								外力注2				材質劣化				漏水			
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	外力	材質劣化	漏水	健全性	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱa	Ⅱb
PS	0.0																						Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ												
S001	10.2																						Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ												
S002	6.2								2				6						2			6	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ								1.28				23.75
S003	19.8								4				5						4			5	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ								1.52				28.42
S004	19.6												3									3	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ												9.19
S005	10.5								1				3						1			3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ								0.60				5.70
S006	10.5								1										1				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ								4.90				
S007	10.5							1	1				2						2			2	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ								0.32	5.31				4.55
S008	10.5								2				3						2			3	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ									8.43				6.90
S009	10.5								2				1						2			1	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ									3.96				24.20
S010	10.5							2	1										3				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ								0.26	1.12				
S011	10.5							1	2				2						3			2	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ								0.12	0.03				5.00
S012	10.5												1									1	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ												2.70
S013	10.5												2									2	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ												5.83
S014	10.5								5				1						5			1	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ									4.32				1.75
S015	10.5								1										1				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ									0.01				
S016	10.5								2										2				Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ									0.10				
S017	8.5								2			1	1						2			2	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ									3.21			6.05	1.00
S018	6.0												1									1	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ												4.30
PE	0.0												2									2	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ												24.64
計		0	0	0	0	0	0	4	26	0	0	1	33	0	0	0	0	0	30	0	0	34					0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.70	34.79	0.00	0.00	6.05	147.93

注１：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性の判定区分欄にのみスパン数1を、材質劣化、漏水はそれぞれの判定区分に変状数を記入する
注２：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性の判定区分欄にのみスパン長を記入すること。

※１：本シートは様式C - 3の集計結果を掲載すること。
※２：覆工スパン数が多い場合は、適時、表の行を増やしてトンネル毎に1枚のシートに収めること。
※３：本シートの集計結果に基づいて、様式A-1の健全性の判定区分の箇所を記載する。